臺灣の紛議

は償金千八百萬兩を取り、且つ牛莊、登州、臺灣、潮州、瓊州、九江、漢口、等の諸港を開かしむるの約をなして退けり(西紀千八百六十一年)。

第五節　初め、日本沖繩の藩民、臺灣に漂着して、生蕃の爲に虐殺せられ、尋で備中の人民も、亦其の禍害を被りしかば、日本は先づ副島種臣を北京に派して、之を問はしめしに、清廷は、口頭を以て、其の化外の地なることをいへり。是に於て、日本は西郷從道をして、問罪の師を率ひて、臺灣の生蕃を平定せしめたりしが、清廷は之に驚きて、急に異議を唱へ、速に其兵を撤せんことを、日本に要求せり。

然れども、日本は清廷の前言に違へるを責めて、敢て之に應ぜず、尋で大久保利通を遣はして、生蕃の所屬を論難せしめしかば、清廷は遂に償金五十萬兩を出して、臺灣の撤兵を請へり。時に西紀千八百七十五年にして、我明治八年に當れり。

光緒帝の外國交渉

第六節　穆宗は、此年を以て崩じ、醇親王の子載湉之に代りて、天位に即けり。今上光緒皇帝卽ち是なり。帝の外國交渉中、重大なる者三事件あり。第一は、伊犂事件にして、露國と衝突し、第二は安南事件にして、佛國と衝突し、第三は朝鮮事件にして、日本と衝突せり。伊犂事件に於ては、帝は殆と滿足なる結果を收め、僅に償金九百萬ルーブルを出して、悉く霍爾果斯河東の地を恢復することを得しと雖、安南及び朝鮮の二事件に於ては、不幸にして全く失敗を取れり。殊に朝鮮事件に於ては、啻に其の主權を放棄せしのみならず、地を割き、港を開き、且つ巨額の償金を出して、漸く其の局を結べり。其の詳細なる事實に至つては、請ふ之を後章に說かん。

第三章　清朝の文化

第一節　官制

制度

官制は、內閣を以て、政府の中心となし、內閣大學士、及び協辨大學士を置きて、之を組織し、其の下に、六部(吏、戶、禮、兵、刑、工)の衙門を設けて、萬政を分掌せしめ、別に軍機所を設けて、軍國の大事を議せしめ、總理衙門を設けて、外交の事を掌らしめ、理藩院を置きて、藩政を總轄せしめ、都察院を置きて、警察を總掌せしめたり。又外官には、總督、巡撫、布政使、按察使、等の諸官を置き、皆出でゝ地方の政務に當らしめたり。

兵制は天下の兵を分つて、陸軍及水師となし、更に陸軍を分つて、八旗、綠旗、鄉勇の三兵となせり。八旗とは、黃、白、紅、藍の四色に、各正鑲を附せし者にして、清初より、滿、漢、蒙の三人種を以て、之を編成し、

學術

或は宮城を護衛せしめ、或は地方に屯駐めしめたり。綠旗兵は、專ら漢人より成れる者にして、全く各省の駐防に供せり。鄉勇は、地方に招募せし壯丁にして、世襲の兵にあらずと雖、長髮賊の亂ありし後は、各省皆之を置くに至れり。又水師は、分つて北洋、南洋、長江、福建、廣東の五水師となしゝと雖、其の最も强盛なる北洋水師は、日清戰爭の爲に、全滅して、今は再修の計畫中なり。

次きに、稅法には、地賦、丁賦、雜賦の三種あり。地賦は夏稅、秋糧といひて、每年二期に之を徵收し、丁賦は、成丁、未成丁、富戶、貧戶、等の別を立てゝ、之を課し、雜賦は分つて、營業稅、釐金稅(貨物運輸の稅)、海關稅、內地關稅等の數種となせり。

第二節　清朝の學術

清朝の學術に於て、先づ注意すべきは、考證學の發達是なり。考證學は、既に明末より起りて、顧炎武の如きは、其の曉星と

宗教

もいふべき學者なりしが、康熙、乾隆の二帝出でゝ、大に學術を振興し、殊に勅撰の大著述(佩文韻府、淵鑑類函、康熙字典、大清會典、續文獻通考、四庫全書、等)をなして、專ら經史の研究を勵したりしかば、考證學は益進みて、閻若璩、毛奇齡、惠棟、戴震、等の諸大家を輩出せしむるに至れり。

文學も、亦之と共に大に興りて、數多の大家を出せり。今其の一二を擧ぐれば、吳偉業、王士禎、蔣士銓等は、詩賦を能くし、魏禧、侯方域、朱彝尊、等は、文章を能くし、金聖嘆、李漁、孔東塘、等は、戲曲小說を以て千載不滅の名を得たり。

第三節　佛教は、元、明以後、諸派悉く衰へて、喇嘛教獨り盛なりしが、清朝に至りても、喇嘛教は敢て衰廢せずして、西藏、蒙古地方の人民は、皆其の黃教を信せり。道教は、明に於て大に勢力ありしを以て清に至りても、其の術を修むる者、決して少からず、政府は各地に道官を置きて、之を統督せしめたり。

基督教は、元明以來、流傳日久厚きを以て其の布教は、漸く各地に行はれ、今は全國到る處の市邑に、教會の設けあるに至れり。回教は、元の時より盛に支那の西部に流行せしが、清に至りても、天山南路は依然として其の中心となり、嘗て高宗及び宣宗の征討を受けしにも係らず、益東流して、甘肅、陝西、直隸の諸省に及べり。

葡人の渡來

第四章　英領印度の興起

第一節　印度は、夙に歐洲人の涎を垂れし豐土にして、之が通商の便路を發見せんと欲せし者、其の數少なからざりしが、西紀千四百九十八年に至りて、バスコ、デ、ガマ といへる者、葡萄牙王の命を

第一地圖參照

蘭人の勢威

奉じて、始めて弗南一周の新航路を開き、印度の南端なる　カリカット　に上陸して、其地の牧長と通商の約を結べり。

是より葡人は、續々來つて、印度の西岸、及び東印度諸島中に貿易を開き、且つ頻りに領土を作りて、植民の用に供せり。而して葡國政府は、葡領印度太守を置きて、之を統轄せしめしかば、其の勢威益盛にして、ゴア、錫蘭、マラッカ、オルムス、等の諸要地は皆其の手中に歸するに至れり。

第二節　和蘭人の、始めて印度と通商を開きしは、十六世紀の末年にして、葡人に後れしこと、殆と一世紀なりしと雖、其商人は極めて機敏にして、漸く葡人の商權を奪へり。殊に蘭政府は、當時新に西班牙と分立して、盛に海上の權を競ひ、和蘭東印度商社を立てて、東洋貿易を奬勵したりしかば、其の勢彌振ひて、遂に葡人の領土を

英人の基業

佛人の跋扈

を奪略し、（マラッカ、錫蘭等）、カルカッタ、ラジア、ペロール、バタビア等に市廛を開きて、一時は東洋貿易の全權を掌握し、其餘響は引いて我日本に及べり。

第三節　英人は、西紀千五百九十一年を以て、始めて印度の各地と通商の約を結び、蘭人に倣つて、東印度商社を設け、先つ葡人と戰つて之を破り、尋いで蘭人と戰端を開きて、初めは常に失敗せしと雖、後ち漸く勢を得て、蘭領の要地を奪ひ、遂に全く和蘭東印度商社を仆して、更に佛人と爭端を開けり。當時英人の領有は、大陸にては、ボムベイ、マドラス、等の數市あるに過ぎざりしが、其の廛舍は、遠く爪哇、スマトラ、暹羅、等の各地に建設せられたり。

第四節　佛蘭西人も、英人に次ぎて、印度と通商を開き、西紀千六百七十四年には、佛蘭西東印度商社を、ポンヂシェリー　に立てゝ、頻

クライブの偉業

りに英人と商權を爭ひたりしが、ヂウプレー　其の總督に任ぜらるゝに及びて、始めて印度蠶食の雄圖を懷き、偶〻莫臥兒帝國分裂して、諸侯互に攻伐を事とするに乘じ、一を滅して一を懷くるの策を用ひて、ポンヂシェリー　附近の數國を定め、佛人の勢威日に振ひて、ヂウプレー　の威名は印度諸侯の心膽を奪ふに至れり。

五節　此時に當りて、クライブ　は、東印度商社の書記として、マドラス　にあり、ヂウプレー　の陰謀を察して、其の反對に出で、佛人と通ぜるカーナチック　侯を討滅して、アーコット　侯の急を救ひ、全く佛人の勢力を殺ぎて、英人の威力を印度の全地に確立せり。

而して西紀千七百五十六年に至り、ベルゴル　の土侯　スラッヂ、アッドーラ　は、故ありて英の　カルカッタ　の貿易場を蹂躙せしかば、クライブ　は、陸軍總督となりて之に向ひ、大に其兵を　プラッセー　に

印度諸侯の覆滅

破りて(翌年)　ベンゴル　の稅政、及び民政を奪へり。是に於て、クライブ　は、東印度商社より其總督に任ぜられ、更に兵を出して、佛の領有を略し、且つ蘭軍の土侯を援けし者を破れり。

第六節　後ち、クライブ　の、健康を破りて、英國に還るに及び、ベンゴル、オウド　の二侯は、共に聯合して、莫臥兒帝の兵を戮せ、英人と　パサール　に戰つて、遂に大敗を取れり。是に於て　ヘスチングス　は　クライブ　に代はりて、印度に來り、ベンゴル　を沒して、英領となし、オウド　を屈して、保護國となし、莫臥兒帝には年金を與へて之を懷けたり。

斯くて、英人は、勢ひ既に印度を呑みしにも係らず、各地の土侯は、尙ほ之に反抗して、次第に其領土を削除せられたり。即ち　マイソール　侯は、十八世紀の末年を以て、領土の半を削られ、マーラッタ　の

諸侯は、今世紀の初年を以て英將ウェルスレーの爲に討平せられ、シンドは、千八百四十三年に至りて敗亡し、パンヂャブのシクス人は、千八百四十九年に至りて征服せられ、其の他の小諸侯は、或は斷統を以て國を除かれ、或は暴虐を以て廢滅せられたり。

土兵の亂

第七節　當時印度人は、ヒンドゥー及びモハメッドの二教を奉じて、夙に英人の跋扈を憤慨せしが、其の新に軍銃を造りて、之を土兵に頒つに至り、藥筒の事に關して、宗教的の紛議を起し、土兵遂に叛旗を翻して、各地の英人を虐殺し、莫臥兒帝を謀主に仰ぎ、不遇の諸侯を誘導し、西はデリーより、東はパトナに至れる、一帶の地を攪亂せり。是に於て、英人は、二年の歳月と、一億五千萬弗の軍資とを費して、漸く之を平定し、莫臥兒帝國を滅し、與謀の諸侯を罰し、且つ東印度商社を廢して、印度を英國女皇の直轄となせり。

緬甸の滅亡

第五章　後印度諸國の運命

第一節　緬甸は、明末より阿瓦、琵牛、阿臘干の三國に分裂して、互に相侵伐し、清の乾隆の初年に當りては、琵牛人蘭兵を藉り來つて、本國阿瓦を併せたりしが、其の後阿瓦は大に興りて、琵牛を服し、暹羅を滅し、且つ阿臘干を併せて、再び舊時の盛運を挽回せり。

然るに、西紀千八百二十四年に至り、英人と阿臘干の一小島を爭ふて、戰端を開き、英兵頻りに、各地に勝つて、怒江を遡り、ラングーン、プローム、等を略して、將に國都に向はんとせしかば、國王メンダンは事の爲す可らざるを知り、和議を求めて、償金百萬磅を出し、阿臘干、ニヌルグイ、タボイ、等を割讓せり。

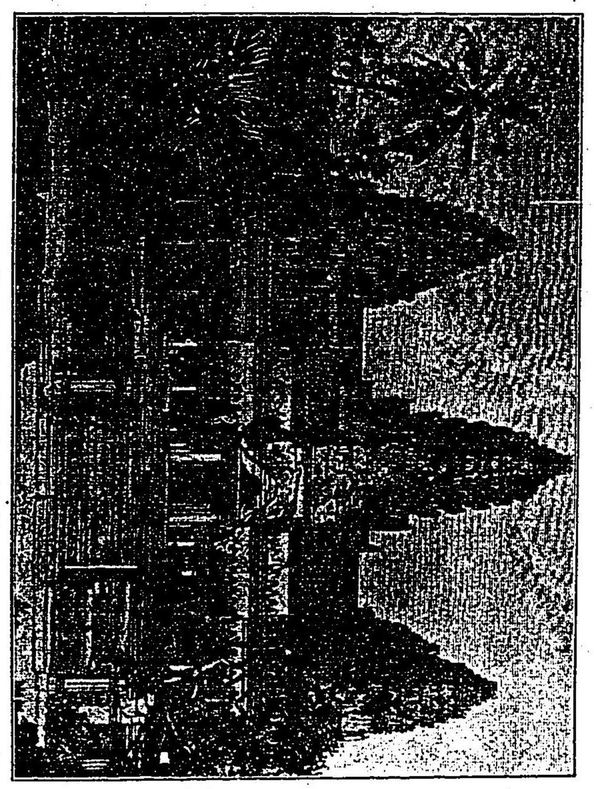
斯くて、緬甸は痛く衰弱せしにも係らず、國王尚ほ英人を蔑視し

て、通商條約に脅きしかば、英艦再び怒江を遡りて、ブローム を陷れ、王は止むなく、琵牛、マルタバン 等の地を割きて、之と和を結べり、時に西紀千八百五十二年なり。

既にして王崩じて、新王 チーボー 立ち、暴戾、昏愚にして、復た英人と兵を交へ、吉夢を信じ、佛法を頼みて、日に捷後の計畫に餘念なかりしが、英人は直に軍を進めて マンダレー を陷れ、王を生擒して、ボムベイ に送り、緬甸を擧げて、英領印度の一部となせり。時に西紀千八百八十五年にして、我明治十八年なり。

遅羅の新興

第二節　清の乾隆年間に當りて、暹羅は阿瓦の爲に全く討滅せられたりしが、鄭昭なる者起りて、敵兵を退け、自ら王位に上りて、都を般谷（バンコック）に定めたり。弟華之に嗣ぎて、清に入貢し、乾隆帝の封を受けて、暹羅國王となれり。



定國の代古南安

其の後、暹羅は東蒲塞の事に關して、屢安南と兵を交へ、遂に老檛及び東蒲塞の一部を得て、之と名譽の和を約し、西紀千八百五十三年以後は、專ら開國の方針を執りて、英、佛、米、清の諸國と通商の約を結べり。而して今王（キウラロングルン）は、即位以來益治を圖りて歐米の文化を求め、我明治二十年には、我邦とも修交の約をなせり。

第三節　明末に當りて、廣南に阮氏起り、廣南王と稱して、都を順化府に定め、子孫相承けて、占城及び東蒲塞を攻略せしが、清の乾隆の頃に至りて、西山州より阮文岳といへる者起り、順化府を陷れて、自ら交趾王と稱し、更に其の將文惠をして、越を擊たしめたり、

是より先き、越は清に朝して、安南國王に封ぜられしと雖、內政既に亂れて、國力微弱なりしかば、文惠は直に東京に入りて、攝政となり、尋で王位を奪ひて、自ら東京王といへり。是に於て、黎氏は使を

清に遣はして、援を求め、清の乾隆帝乃ち之に應して、一旦黎氏を復せしと雖、文惠は遂に清兵を退けて、再び東京王と稱し、後ち清に内附して、其の封を請へり。

此時、廣南の阮福映は、佛國の宣教師に援けられて、暹羅に逃れ、使を佛國に遣はして、其の兵を藉り、漸く交趾を定めて、國都を柴棍に立て、後ち東京王死して、國内大に亂るゝに及び、先づ中交趾及上交趾を取りて、順化の故都に還り、更に北伐の師を出して、東京を陷れ、國號を越南と改めて、中興の事を清に奏し、乾隆帝の封を受けて、越南國王となれり。是れ即ち、嘉隆帝にして、實に今王の八世の祖なり。

佛人の來侵

第四節　初め阮氏は、佛國に援助を請ふに當り、事若し成らば、化南島を割讓せんことを約したりしが、後ち安南を一統するに及んで、其の盟約を履行せず、且つ世々天主教を惡みて、佛國の宣教師を虐殺せしかば、西紀千八百四十七年以來、佛國は之に臨むに、武斷を以てせり。

斯くて千八百五十八年に至り、佛國は、東京に黎興の亂あるに乘じて、化南港を破り、柴棍府を略取せり。是に於て、嗣德帝は止むなく、遂和、定祥、嘉定の三州を割きて、和を求め、佛國は之を受けて、根據地となし、更に東蒲塞を定めて、其の保護國となせり。是より先き、東蒲塞の南半は、既に安南に併せられしが、北半の山地は、尚ほ一王國として、其の附庸たりしを以てなり。

其の後、越は紅河航通の事に關して、再び佛人と兵を交へ、佛軍幸に敗退して、越は僅に其の通商を開きしに過ぎざりしが、既にして東京の知事黃宗英の、劉永福(黑旗兵の首領)を引きて、佛人を擊退

清佛の衝突

せんとするに至り、佛國は直に兵を進めて、河内及び南定を攻陷せしめたり。斯くて、崇英は遂に自殺せしと雖、永福は其勢尚ほ盛にして來つて河内を復せしかば、佛の東京理事官は、越の政府を以て、黑旗兵の根據となし、少將　クールベー　を遣はして、京城を侵さしめ、協和帝の和を請ふに及んで、越を擧げて、佛國の保護國となせり。時に西紀千八百八十三年なり。

第五節　然るに、清國は、越を以て其の藩邦となし、曾紀澤を佛國に派して、頻りに異議を唱へしめしと雖、總理　フヰリー　固く執つて、敢て動かざりしかば、清廷遂に之に屈して、佛國の主權を認許せり。是に於て、佛軍は進んで、諒山の鎭臺を占有せんとせしが、清國の守兵突然之を襲擊するに及んで、兩國の平和忽ち破れ、佛國は海陸二軍を發して、清國に向はしめ、海軍は　クールベー　之が主將となり

サファビー朝の興起

第十一地圖參照

て、福州の清艦を沈滅し、陸軍は　チグール　之を率ひて、鎭南關内に擊入せり。

然れども、此時偶　フヰリー　内閣仆れて、佛國の外政一變し、清將馮子材之に乘じて、諒山を恢復せしかば、兩國互に一歩を讓りて、和を天津に結び、越の主權は依然として佛國に歸せり。時に西紀千八百八十五年にして、我明治十八年なり。

第六章　西亞の大勢

第一節　帖木兒の、アム　河邊に沒して、邦土忽ち瓦解するや、月祖伯人（金黨の別種）は、之に乘じて、中亞細亞の各地を奪ひ、都爾格人は再び東侵して、シリヤ　及び　メソポタミヤ　に及びたりしが、十五世紀の末年に當りて、イスマエル　なる者波斯に起り、所謂　サファビ

阿富干朝の興亡

朝を建てゝ、四境を經營し、西は都爾格帝　ムラッド　の軍を破り、東は月祖伯人の主　シャイバニ　の兵を破れり。而して孫　アバス大王の立つに至りては、(西紀千五百八十六年)啻に兵を東西に用ひしのみならず、英吉利、露西亞、西班牙、葡萄牙、佛蘭印度等の諸國と相往來して、頻りに文化の輸入を圖れり。

第二節　然るに、十八世紀の初年に至りて、阿富干斯坦に　マームード　王起り、性驍勇にして、攻伐を好み、西紀千七百二十一年を以て、波斯に侵入し、遂に　サファビー　朝を滅して、自ら波斯王　(シャー)　となれり。マームード　は尋で死して、其の子　アシラフ　位を嗣ぎしと雖、内は暴政甚しくして、下民之に服せず、外は露都二國の來寇ありて、國力痛く衰毫したりしかば、幾もなくして、有名なる　ナヂル、シャー　の爲に擊退せられたり。

ナヂル、シャーの勢威

第三節　ナヂル、シャー　は、千七百三十六年を以て、シャー　位に即き、西は都爾格人を逐つて、アルメニア　及び　ジョルジア　を復し、東は莫臥兒帝國を略して、パンヂャブ　に至り、北は月祖伯人を破つて　アム　河を境とし、南は　キルマン　及び　メクラン　の全地を併せて直に亞剌比亞海に接し、コラサン　以東の地を割きて、其の將　アブダリー　に與へたり。アブダリー　は即ち阿富干斯坦の　アーメッド、シャーにして、嘗て印度を蠶食して、カシミル、パンヂャブ、シンド、等に及びし者なり。

カヂャー朝以後の西亞

第四節　波斯、阿富干斯坦の二國は、一時は斯くの如く强盛なりしと雖、共に一代にして、衰廢に傾き、波斯は、カヂャー　人の主　アガ、ムハメッド　の爲に滅され、阿富干斯坦は、其の臣　ドスト、モハメッド　の爲に簒奪せられたり。而して　アガ、ムハメッド　は、西紀千七百九十

六年を以て　カヂャー　朝(波斯現時の王朝)を建てしと雖、都爾格人は、東侵して　チグリス　河東に至り、露西亞人は、南侵して　アラス　河に及び、カブール、カンダハル、ヘラート　の三地は、尚ほ依然として阿富干斯坦に歸せり。又中亞細亞の地は、初めは月祖伯人に屬して、基華(ヒワ)、卜哈剌(ボーカン)、浩罕の三汗稍盛なりしが、後ち露國の南侵するに及んで、或は亡び、或は藩となれり。

露國南侵の三路

第五節　露國の對外策は、嘗て　ピーター　大帝の定めし所にして、其の侵略は、常に河海に向つて進めり。蓋し大帝は、當時に在りて、既に世界の大勢を觀破し、列國の競爭は最早陸上にあらずして、寧ろ水上に在るべきことを知りたればなり。

露國の南侵は、最も能く其の政策を證明せる者にして、自ら三大進路に分れたり。即ち第一は黑海を經て地中海に出てんと欲せし者にして、事全く都爾格に關し、第二は、高加索地方より進んで、裏海の全權を收めんと欲せし者にして、事重に波斯に關し、第三は、シル、アム　の二河谷を獲て、遂に印度に進まんと欲せし者にして、其の影響は、中亞諸國、英領印度、阿富干斯坦、波斯、等に及べり。但し第一路の侵略は、全く西洋史に屬するを以て、今は之を除きて、第二第三兩路の侵略を概言せん。

高加索地方の侵略

第六節　高加索地方の經營は、實に　ピーター　大帝を以て始まれり。帝は、波斯人の露商を害せしを機として、大兵を波斯に出し、マームード　王の兵を破りて、悉裏海の沿岸(ダゲスタン、ギラン、マゼンデラン　等)を略取せり。時に西紀千七百廿五年なり。然るにナヂル、シャー　出でゝ、忽ち之を恢復したりしかば、アガ、マームードの世に至りて、カザリン　女帝は再征の師を出し、デルベンド、バ

ク一、等を攻陷して、將に　ギランに及ばんとせしが、偶帝崩じて事全く水泡に歸せり。

然れども、露國の南侵は、之が爲に挫折せず、アレキサンダー　一世の立つに至りて、波斯と　ジオルジア　を爭つて、大勝を收め、啻にジオルジア　を得しのみならず、併せて傍近の七州を得たり。時に西紀千八百十四年なり。後ち十餘年を經て、ニコラス　一世は、更に波斯と戰つて、アラス　河以北の地を收め、アレキサンダー　二世は、尋で北高加索の土族を鎭定して、治を其の地に布き、且つ都爾格と戰つて、黑海の沿岸に數州を得たり。

中亞細亞地方の侵略

第七節　中亞細亞地方の經營も、亦　ピーター　大帝の頃より始まりしと雖、其の着々として、歩武を進めしは、ニコラス　一世以後の事なり。帝は、キルギス　人を服して、裏海以東の植民を奬勵し、且つ既收の諸要地に、城砦を築きて、征戰の計を整へしに過ぎざりしが、アレキサンダー　二世の立つに及んで、先づ兵を出して、シル河谷を南侵せしめ、西紀千八百六十三年には、浩罕を滅し、其の翌年には、タシケンド　を略し、千八百六十六年には、サマルカンド　を取りて、ト哈剌を屬國となし、千八百七十年には、カシガル　汗を誘はんが爲に、伊黎を占領せり。

而して帝は、此時既に兵を裏海の東岸に用ひて、クラスノボドスクを略し、千八百七十三年には、基華を伐つて、之を降し、千八百八十年には、更に南侵して、アスカバット　に至れり。斯くて、帝は、此年を以て崩ぜしと雖、アレキサンダー　三世之に嗣ぎて、亦意を中亞に用ひ、遂に　メルブ　を取りて、東西二路の連絡を全ふせり。時に千八百八十四年なり。

第一阿富干戰爭

第八節　初め露國の南侵、未だ斯くの如く迫らざりし時に當り、英人は早く印度の急を察して、措くこと能はず、頻りに阿富干斯坦を引きて、其の進路を斷たんことを圖れり。然るに當時　カブール　には、内訌ありて、　ドスト、モハメッド　なる者王位を奪ひ　シャー、スーザヤ　は爲に國を脱して、印度の英人に來投したりしかば、印度大總督　オークランド　は之を擁して、　ドスト、モハメッド　の親交を退け、其の止むなくして、遂に露國と通ずるに至り、所謂義兵を出して、　シャー、スーザヤ　を復位せしめ、　ドスト、モハメッド　を捕へて、　カルカッタ　に送れり。時に西紀千八百三十八年なり。

斯くて、　シャー、スーザヤ　は、　カブール　の王位に復せしと雖、國人尚ほ　ドスト、モハメッド　を思ふて、敢て之に心服せず、千八百四十一年には　ドスト、モハメッド　の子　アクバー　を奉じて、大亂を作し、英國の駐在兵を退けて、之を　クルド、カブール　峠に要擊し、且つ約に背きて　シャー、スージャ　を弑せり。是に於て英國政府は　オークランド　を免じて、　エレンボロー　を印度大總督に任じ　カブール　の亂を定めて　ドスト、モハメッド　を復位せしめ、之と攻守同盟を結びて、波斯人の侵入に當れり。

第二阿富干戰爭

第九節　ドスト、モハメッド　は尋で死して、其の子　シーア、アリー　之に嗣ぎたりしが、英人の　ケッタ　を取るに及んで、英を去つて、露に通じ、印度大總督　ロード、リットン　の修好を拒みて、其の使を國境より逐ひしかば、英國は再び　カブール　に開戰して、　シーア、アリー　を中亞に逐ひ、其の子　ヤクブ　を立てゝ、一旦師を班せり。時に西紀千八百七十九年なり。然るに、後ち僅に二ヶ月にして、　ヤクブ　も亦反きて英國公使を殺したりしかば、　リットン　は將軍　ロバート　を

遣はして之を定めしめ、アブヅル、ラマン を立てゝ、阿富干斯坦全國の主となせり。

而して、當時 クラッドストーン は、ヂスレーリー に代はりて、英國の内閣を組織したりしかば、英國は從來の政策を一變して、露國と協議を開き、阿富干斯坦の北境を確定して、兩國の爭根を斷てり。時に西紀千八百八十五年にして、我明治十八年に當れり。

哥薩克人の東侵

第十三地圖參照

第七章　清露の衝突

第一節　悉伯利は、嘗て丁零、黠戛斯、等の住みし處にして、明代よりは、露の金黨の支族之に據つて、悉伯利汗と號したりしが、十六世紀の下半紀に至りて、哥薩克人の爲に討滅せられたり。當時哥薩克人に エルマーク といへる者あり、露人に攻擊せられて、居所なきに苦み、其の徒八百人を率ひて、烏拉爾山を越へ、行、諸部落を下して遂に悉伯理汗の居城に迫り、悉く其の地を奪つて、之を露帝に獻ぜり。是れ實に露國東侵の第一着手なり。後ち エルマーク は敵地に敗死して、其の侵地は、悉く蒙古人に恢復せられしと雖、露廷は哥薩克人を用ひて、再び之を侵略せしめ、十七世紀の終りには、其の足跡、既に東は オコツク 海岸に至り、北は北氷洋岸に達せり。

テルチンスクの條約

第二節　而して、十七世紀の中頃には、ポヤルコフ 及び ハバロフ の二人でゝ、悉伯利の東南部を經營せり。即ち ポヤルコフ は、スタノボイ、山脈を越へて、ゼナ 河を下り、河口より黑龍江を探檢して、オコツク 海に至りて還り、ハバロフ は、シルカ 河を下りて、黑龍江に出で、江岸の土族を拂つて、烏蘇里江邊に至り、更に還つて、城を アルバヂン に築けり。時に清は、世祖の世にして、未

だ力を外に分つこと能はざりしが、既にして康熙帝の立つに至り、哥薩克人の南侵益甚しかりしかば、帝は愛琿城を築きて、之に備へ、且つ使を露廷に遣はして、哥薩克人の南下を止めしめたり。

然るに、アルバンヂン の露人は、尚ほ依然として、其の城を保持したりしかば、帝は兵を出して、之を拔き、主將 トブルジン を チルチンス に逐はしめたり。然れども、トブルジン は忽ち援兵を得て、再び アルバヂン に來り、帝も亦兵を發して、之を圍ましめしが、既にして、露帝 アレキサンダー 二世の、ゴローヂン を派して、和を議せしむるに至り、帝は內大臣索額圖を遣はして、之と チルチンスク に會して、平和の條約を結ばしめ、悉く露人の侵地を恢復して、格爾必齊河を以て、境界となせり。時に西紀千六百八十九年なり。

第三節　其の後、清廷は此の條約を賴んで、敢て意を北方に注がざりしが、露廷は悉伯利總督を置きて、舊來の南侵策を講ぜしめ、殊に今世紀の半に至りては、僧正 インノケンチー、將軍 ムライヨーフ 等の策士出て、其の局に當り、先づ黑龍江口に民を移して、ニコライプスク 港を開き、尋で手を伸ばして、我樺太島の北部を占領せり。

既にして クリミヤ の役起り、英、佛二國の軍艦共に オコック 海に闖入せしかば、ムライヨーフ は、益黑龍江を收むるの必要を感じ、帝に申請して、黑龍江の運糧を試み、且つ清國に迫りて、境界改定の議を開けり。時に、清國は、內には長髮賊の亂あり、外には英、佛の紛議ありて、北方を顧るに遑あらざりしかば、一に露國に讓りて、愛琿條約を結び、悉く黑龍江北の地を棄てゝ、松花、烏蘇里の二江を開けり。時に西紀千八百五十八年なり。

清國の讓歩

伊犂事件

斯くて、愛琿條約は、其翌年を以て交換せられしと雖、尋で清國は英、佛同盟軍の爲に迫られて、殆と爲す所を知らざりしかば、露國公使イグナチエーフは之に乘じて、頻に調停の勞を執り、遂に其報として、烏蘇里江東の全地を得たり。時に西紀千八百六十年なり。

第四節　既に前章に於て概言せし如く、露國は、此頃より兵を中亞細亞に出して、頻に各地の族長を征服せしが、西紀千八百七十年に至り、露將ポルパコブスキーは、カシガル汗を誘出せんが爲に、其の渴望せる伊犂を占領せり。但し露廷は、之が永遠の領有に意あらざりしを以て、使を清國に遣はして、其の鎭兵を求めたりしと雖、當時清國は穆宗の世にして、偶西域地方に大亂ありしかば、止むなく之を放棄して、偏に反徒の鎭定に從事せり。

斯くて穆宗崩じて、光緒帝の立つに至り、清國は漸く各地の反を定めて、伊犂還附の事を露國に迫り、先づ崇厚を派遣して、リワヂヤの假條約を結ばしめしと雖、其の讓步過大にして、群議百出せしかば、乃ち之を廢棄して、更に曾紀澤を遣はし、償金九百萬ルーブルを出して、霍爾果斯河を彊界となすの約を結ばしめたり、時に西紀千八百八十一年にして、我明治十四年に當れり。

朝鮮と清との關係

第八章　朝鮮の獨立

第一節　初め清朝の、滿州より起るや、朝鮮は援兵を出して、明を救はんことを謀りしと雖、其の將姜宏立の清に降るに及んで、事局全く素志と齟齬し、止むなく之と和を結んで、約して兄弟の國となれり。然れども、素と朝鮮は明の外藩にして、國初以來の關係極めて厚かりしを以て、竊に明を推戴して、其の命令を奉じたりしかば

外難の初發

清の太祖は之を怒りて、兵を八道に進め、憲文王を江華島に逐つて、降を軍門に請はしめたり。所謂丁卯の變、即ち是なり。斯くて、朝鮮は陽に清に臣事せしと雖、尚ほ未だ明と離るゝこと能はずして、再び清の太祖の來伐を受け、降を瀋陽に請ふて、二王を質とし、清の正朔を奉じて、世々屬國の禮を執れり。

第二節　西紀千八百三十三年以來、佛國の宣教師は朝鮮に入りて、天主教を傳へ、殊に英佛同盟軍の清國を攻むるに至りては、其の勢益盛なりしが、當時朝鮮は未だ鎖國の時代にして、之を憎むこと極めて甚しく、遂に宣教師を捕へて、之を虐殺すること數人に及び、しかば、佛國之を聞きて、軍艦三隻を派遣し、江華灣の砲臺と、江華島の城砦とを攻陷して、以て其の怨に報ぜり。

此頃、米人も亦平安道に於て、朝鮮人の殘虐に逢ひしかば、米國政府は、先づ其の公使をして、之を清廷に難詰せしめたり。然るに、清廷は朝鮮の自治を名として、其の交渉を避けしかば、米國政府は、乃ち佛國に倣つて、軍艦二隻を送り、江華島の砲臺三坐を攻陷して、朝鮮を威赫せり。

朝鮮の開國

第三節　西紀千八百六十六年に當り、露國の軍艦は朝鮮に來りて、始めて其の通商を求め、尋で米人も大同江に來りて、貿易を求めたりしが、朝鮮は、或は之を拒み、或は之を擊退せり。然るに日本は維新以來、頻りに朝鮮を誘導して、遂に其の港灣を開かしむるに至れり。

明治の初年に當りて、日本は使を遣はして、好を朝鮮に修めんとせしも、朝鮮は其書辭を疑ふて、敢て之に應ぜず、尋で日本は花房義質を釜山に遣はして、通商の事を議せしめしも、復要領を得ること

能はざりしが、明治八年に至りて、日本の雲揚艦江華灣に投錨して、永宗島の砲臺より砲擊せられたりしかば、日本は黑田清隆及び井上馨を遣はして、之を詰問せしめ、且つ修交條約の事を嚴談せしめたり。是に於て、朝鮮は其の罪を陳謝して、始めて修交の約を結び、尋で通商章程を作りて、仁川、元山の二港を開けり。是れ實に朝鮮開國の始めにして、又其の獨立の始めなり。

鎭兵の暴動

第四節　初め朝鮮今王の、歳漸く長じて、政を親らするや、父大院君は王妃閔氏と合はずして、雲峴宮に引退せしが、我明治十五年に至りて、京城の鎭兵を煽動し、先づ外戚閔氏の第を破りて、尋で王宮に亂入せしめたり。然るに亂徒は勢に乘じて、日本公使館を襲擊したりしかば、日本は井上馨を遣はして、其罪を問はしめ、遂に朝鮮をして、謝罪金五十五萬圓を出さしめ、且つ日本兵を、京城に置きて、公使館の護衛に充てんことを、承諾せしめたり。

天津條約

第五節　斯くて、日本は約に從つて、兵士を京城に派遣せしかば、清國も之と同時に、二千餘人の兵を出して、京城に駐屯せしめたり。蓋し暗に日本兵に當らしめんと欲せしが爲なり。當時朝鮮の政界は二黨に分れ、一は事大黨と稱して、清國に依賴し、一は獨立黨と稱して、日本に依賴したりしが、既にして、事大黨の諸臣、清將袁世凱と相結托して、益勢力を占むるに至り、獨立黨の領袖金玉均等は、憤怨に堪へずして、遂に之が暗殺を企て、國王を景祐宮に奉じて、日本公使の擁護を請へり。是を以て、公使竹添進一郎は、兵を率ゐて、行いて王宮を守りたりしが、清兵は事大黨に荷擔して、來つて之を襲ひ、日本公使館も、其の燒盡する所となれり。是に於て、日本は復た井上馨を朝鮮に遣はして、謝罪金十三萬圓を納めしめ、別に伊藤博

日清の交戰

文を清國に遣はして、善後の策を議せしめたり。博文乃ち李鴻章と天津に會見して、兩國互に朝鮮の兵を撤し、爾後若し之を出すの必要あらば、必ず相通告すべきことを約せり。所謂天津條約、即ち是なり。時に西紀千八百八十五年にして、我明治十九年なり。

第六節　後ち我明治二十七年に至り、朝鮮に東學黨の亂起りて、清國は援兵を牙山に送りしかば、日本も亦兵を京城に出して、其の居留國民を保護せしめ、且つ公使大鳥圭介を遣はして、韓政の改革を圖らしめたり。然るに、清國欽差總辨袁世凱は、之と意見を異にして、朝鮮を清國の外藩となし、將に日本を排して、往時の關係を復せんとせしかば、兩國の平和遂に破れて、互に兵を朝鮮に出せり。

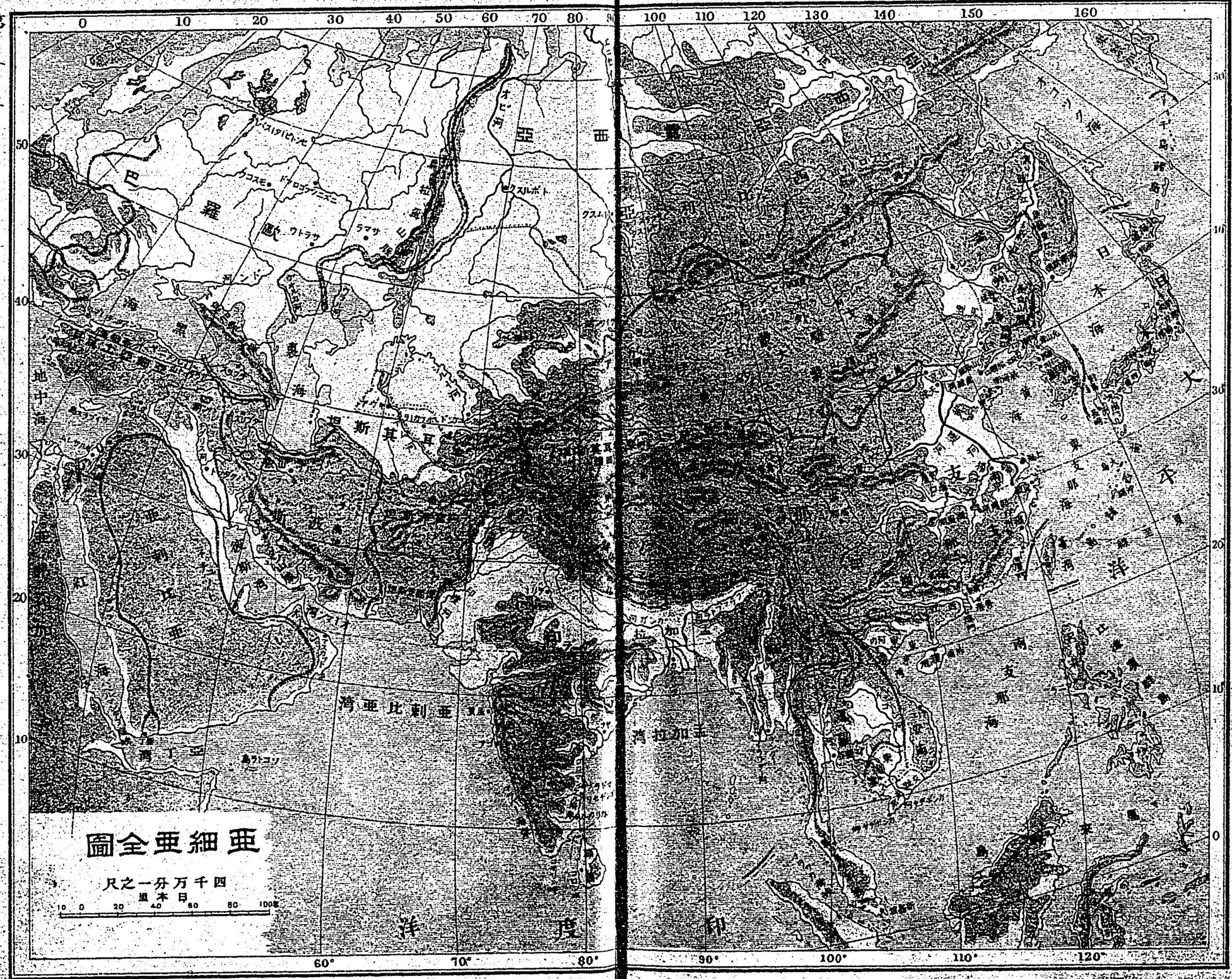
斯くて、日軍の將山縣有朋は、直に朝鮮の清兵を擊退して、九連城に向ひ、伊東祐亨は、之と同時に北洋艦隊を擊破して、威海衛に退隱せしめ、尋で大山巖は第二軍を率ひて、花園口に上陸し、第一軍は九連城、鳳凰城等を略して、海城に出で、第二軍は、金州、旅順口、等を陷れて、蓋平に進み、遂に共に力を合せて、牛莊及び田庄臺を下し、更に別隊は路を分つて、一は澎湖島を略し、一は威海衛を拔き、海陸力を合せて、將に直隸省に擊入せんとせり。

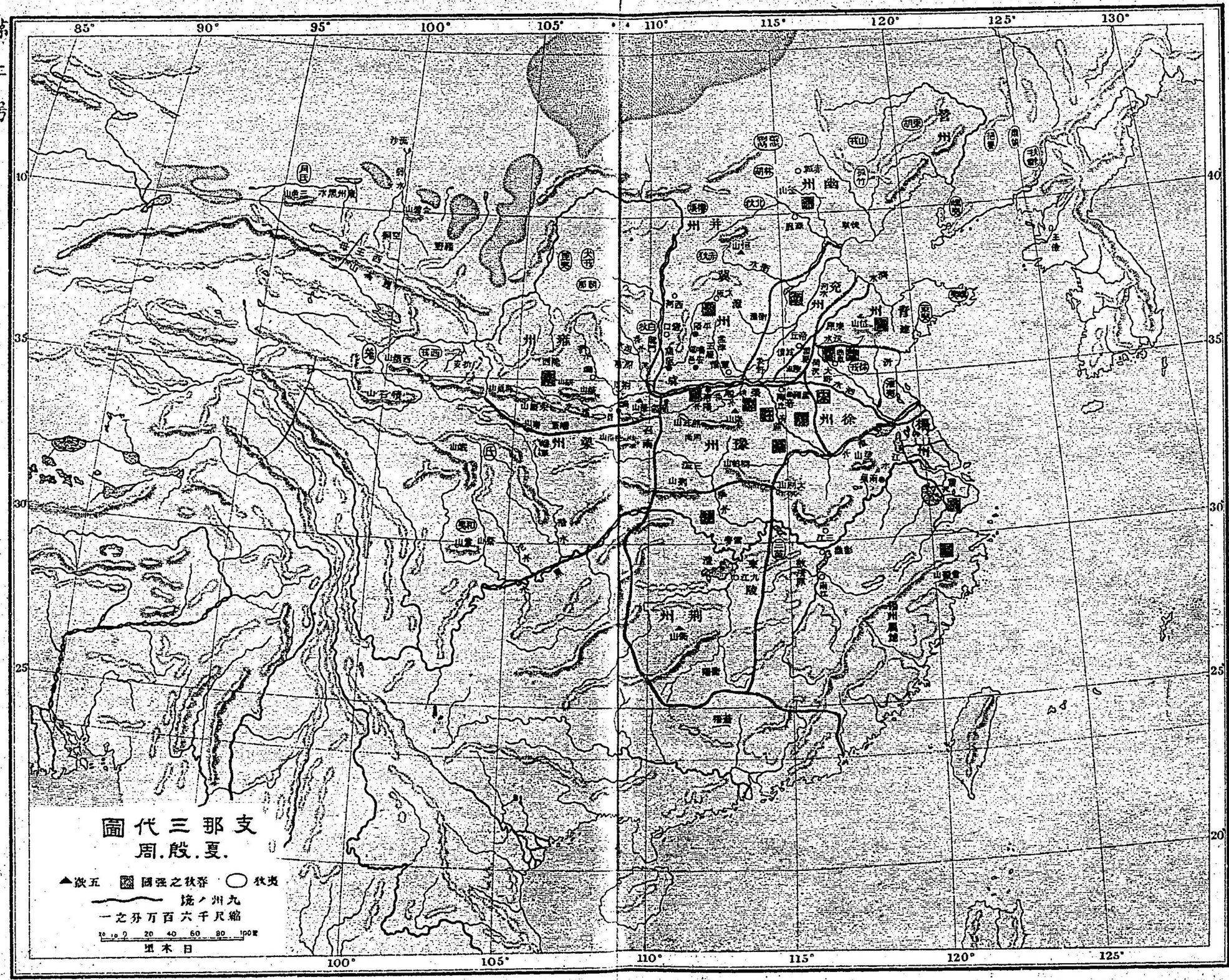
是に於て清廷は事の爲す可らざるを知りて、媾和の議を定め、李鴻章を全權大臣となして、日本に派遣し、伊藤博文及び陸奥宗光と馬關に會見して、平和の條約を結ばしめ、朝鮮の獨立を確認し、償金二億兩を拂ひ、遼東半島及び臺灣、澎湖の二島を割き、且つ沙市、重慶、蘇州、杭州の四港を開きて、漸く其局を結べり。時に我明治二十八年なり。

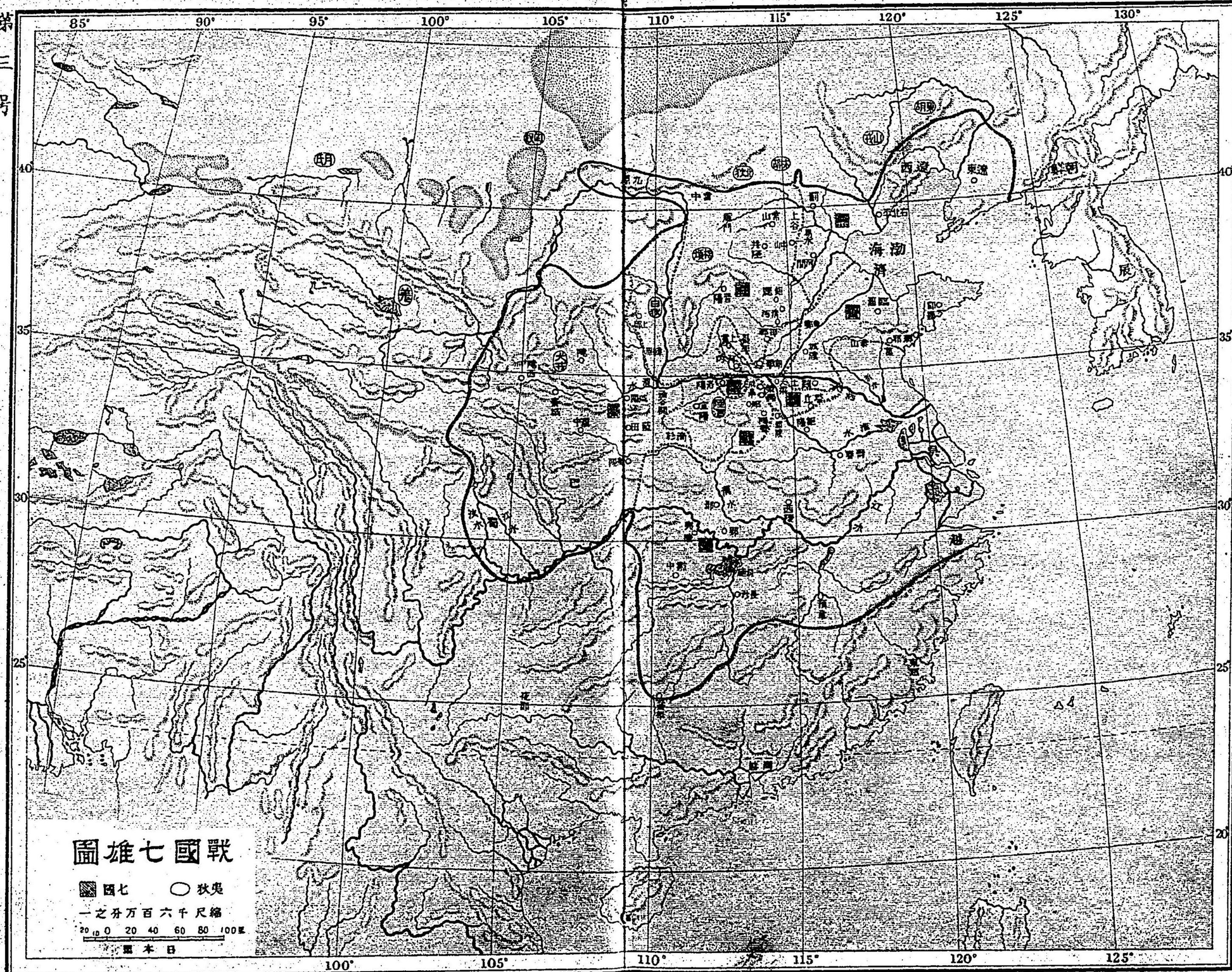
然るに、露西亞、獨逸、佛蘭西の三國は、遼東半島の割讓に異議を挿み、共に同盟を結びて、其の領有を永遠にせざらんことを、日本に勸

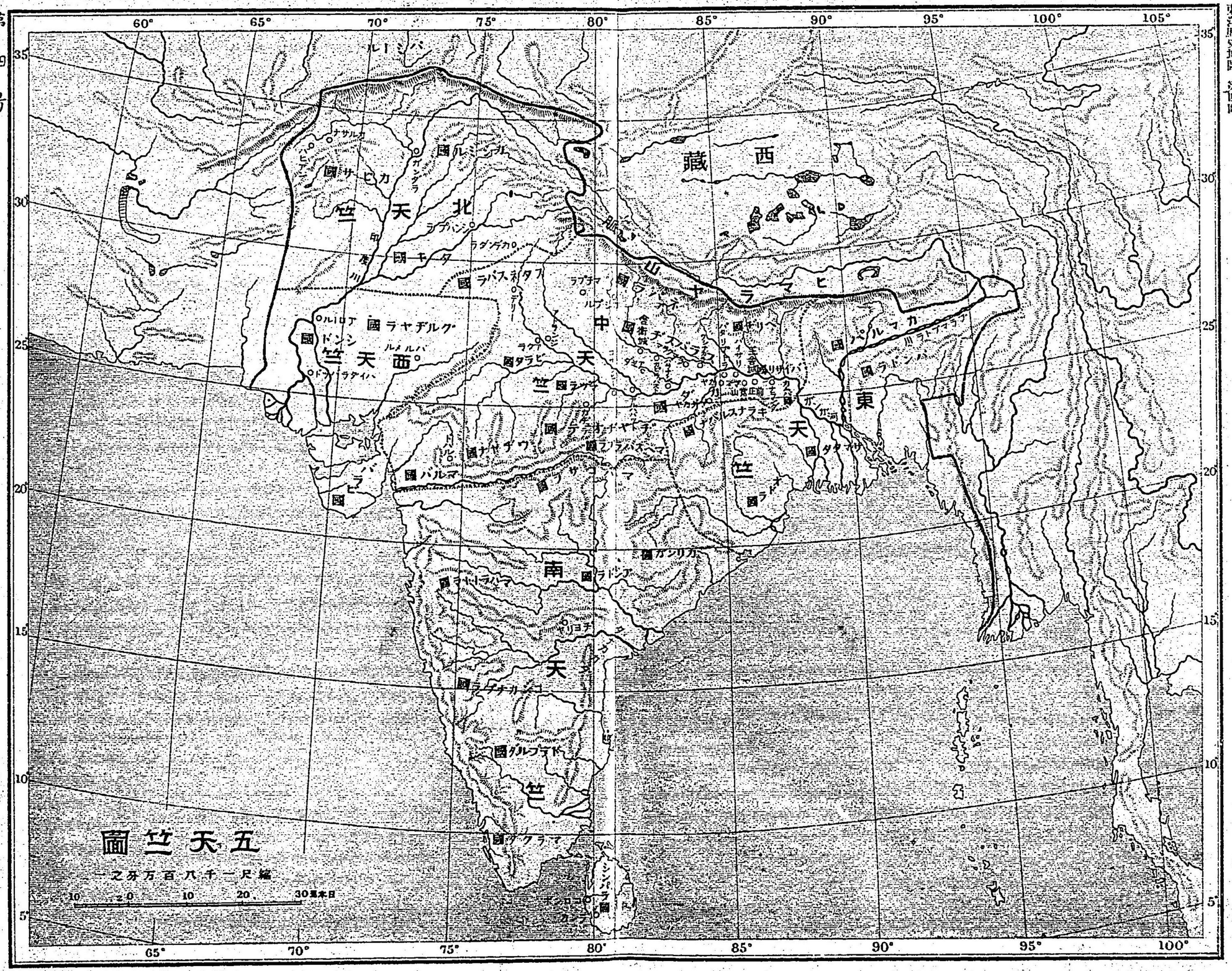
めたりしかば、日本は之を納れて、後ち遼東半島を清國に還附せり。

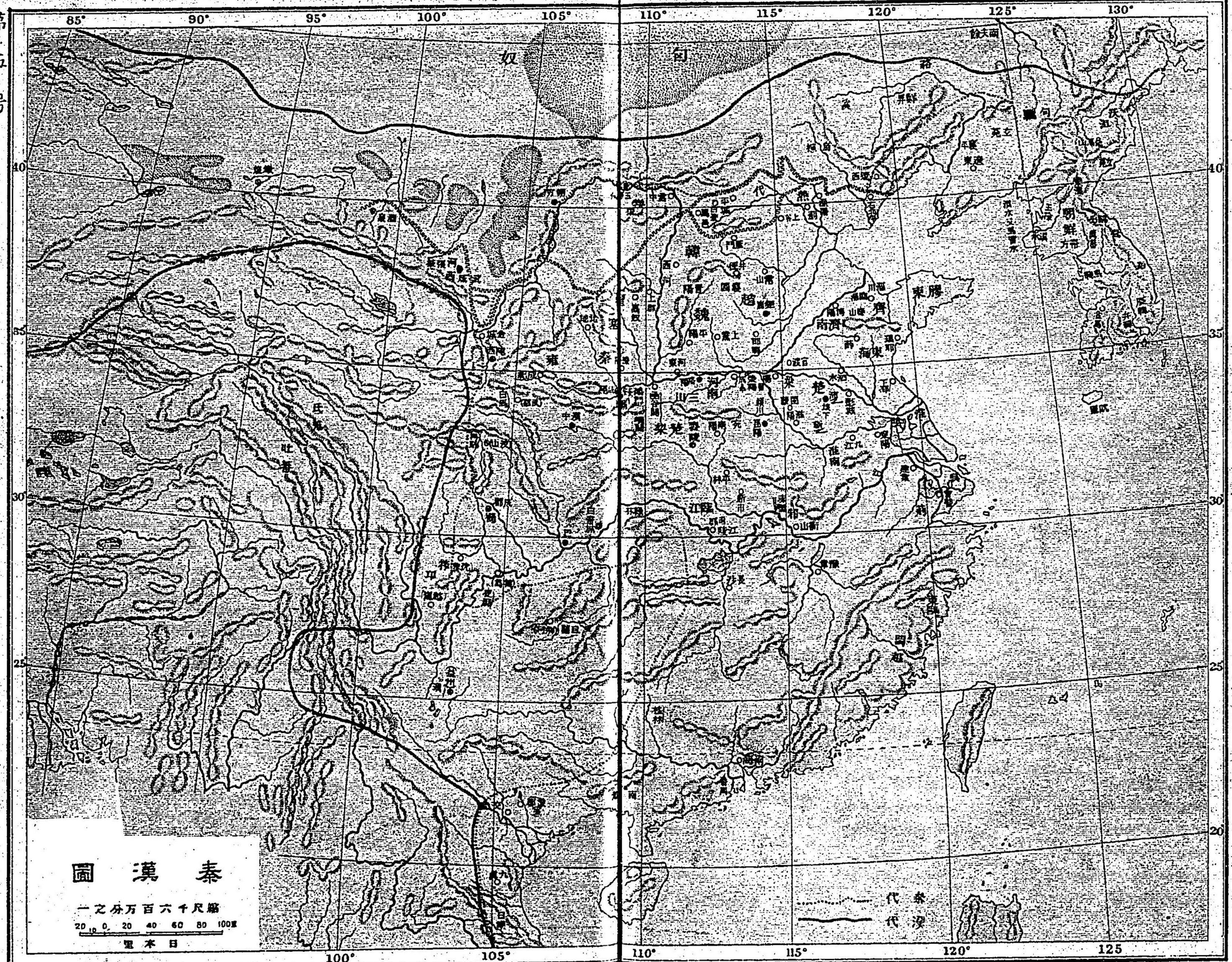
中學東洋歴史終

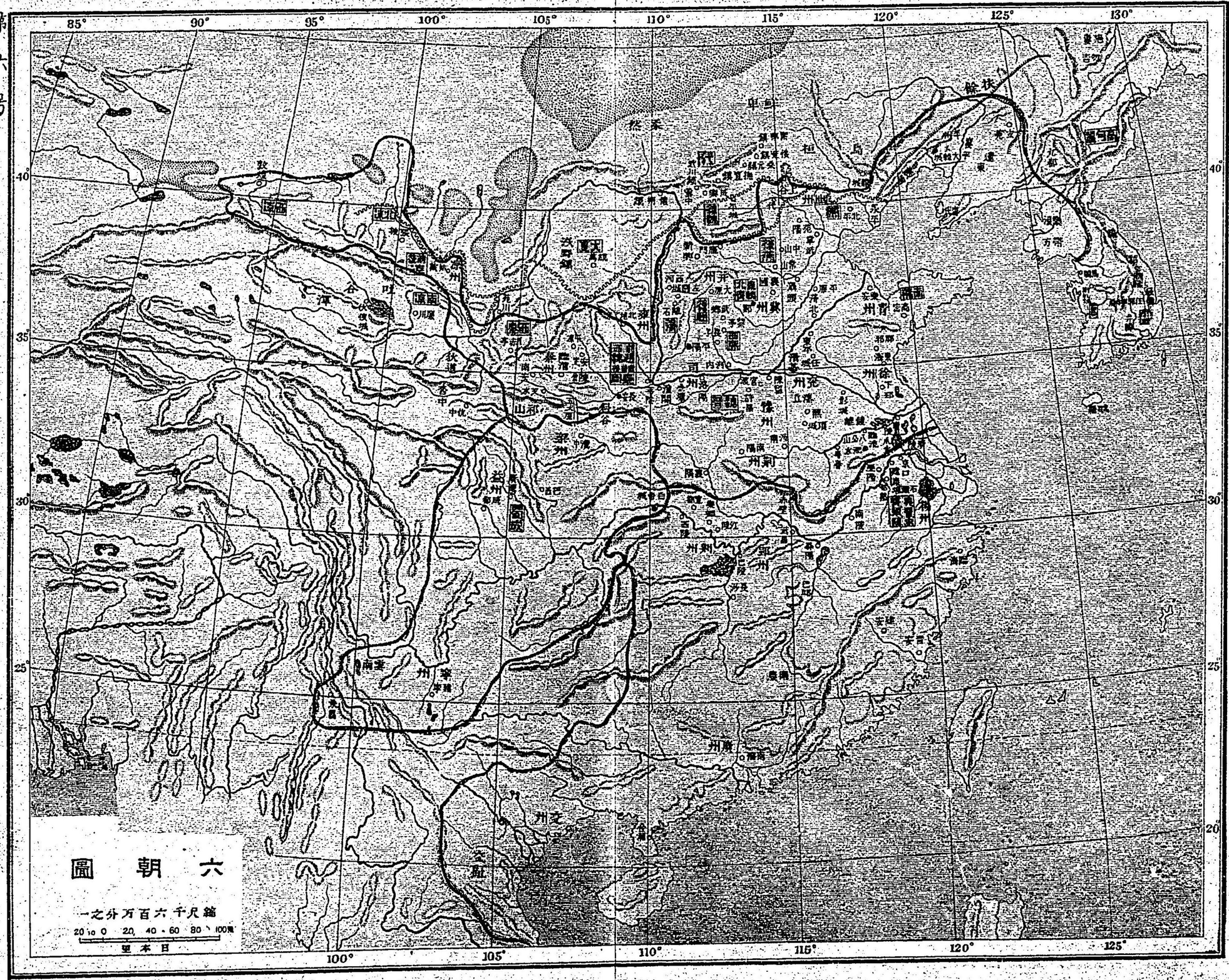

亜細亜全圖
四千万分一之尺
日本里
亜細亜
印度洋
太平洋
南支那海
日本海
黒海
地中海
紅海
亜剌比亜
亜剌比亜湾
亜加拉湾
亜剌比亜湾
亜剌比亜海
亜剌比亜
亜剌比亜海
亜剌比亜海
亜剌比亜海


支那三代圖
周.殷.夏.
▲嶽五 國强之秋春 牧爽
九州ノ境
一之分万百六千尺縮
里 0 20 40 60 80 100
日本里
85° 90° 95° 100° 105° 110° 115° 120° 125° 130°
40° 35° 30° 25° 20°
冀州
兗州
青州
徐州
揚州
豫州
荆州
梁州
雍州
幽州
并州


戰國七雄圖
七國
狄夷
縮尺一之分万百六千
日本里
85°
90°
95°
100°
105°
110°
115°
120°
125°
130°
40°
35°
30°
25°
20°
渤海
西遼
東遼
朝鮮
秦
楚
燕
齊
魏
趙
韓
巴
蜀
越

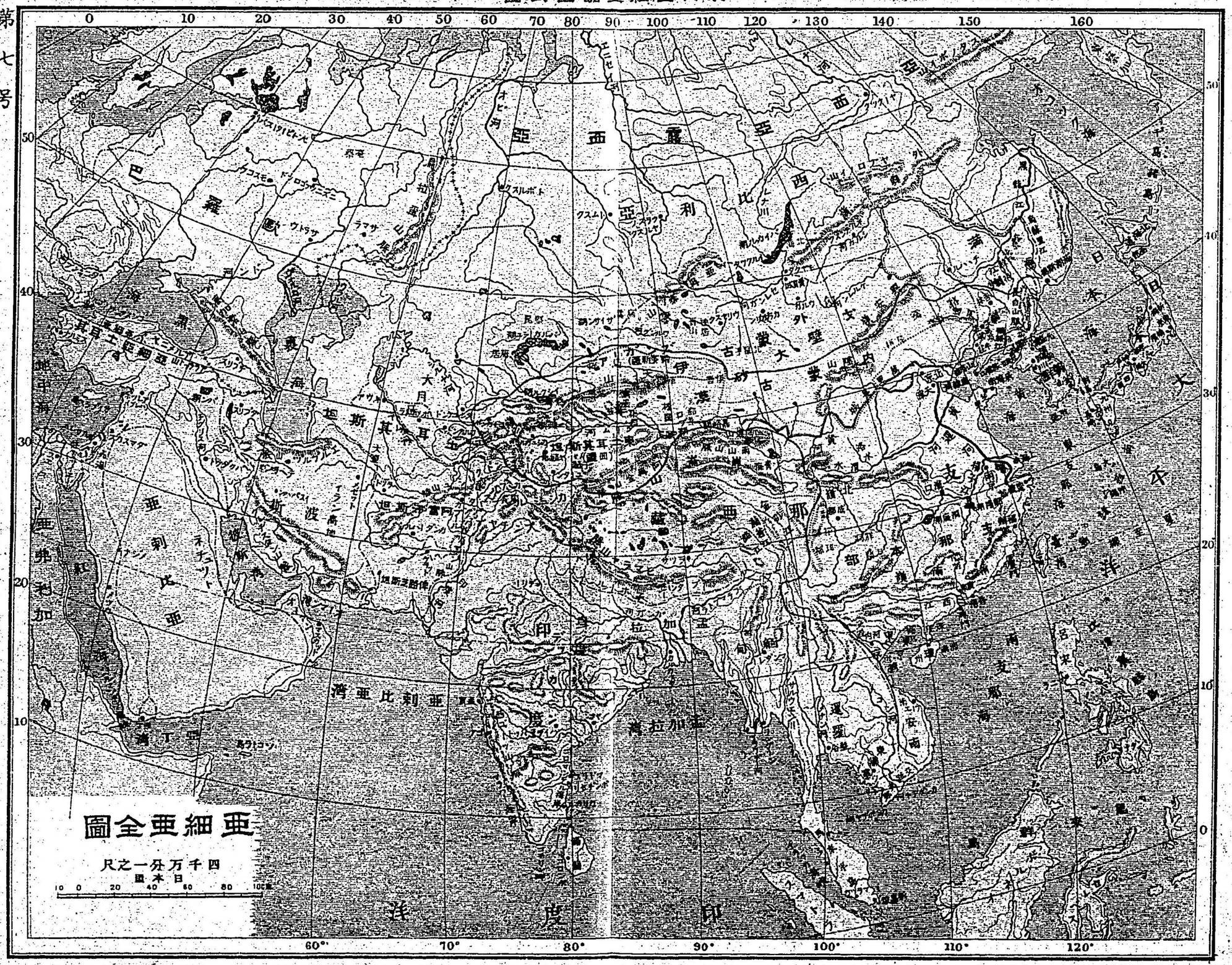

五天竺圖
一之分万百八千一尺縮
10 20 0 10 20 30里本日
60° 65° 70° 75° 80° 85° 90° 95° 100° 105°
35 30 25 20 15 10 5
藏西
北天竺
西天竺
中天竺
東天竺
南天竺
國ラヤデルグ
國ドンシ
國ラバスネタプ
國ラバ
國ラヤ
國ラヤ
國ラヤ

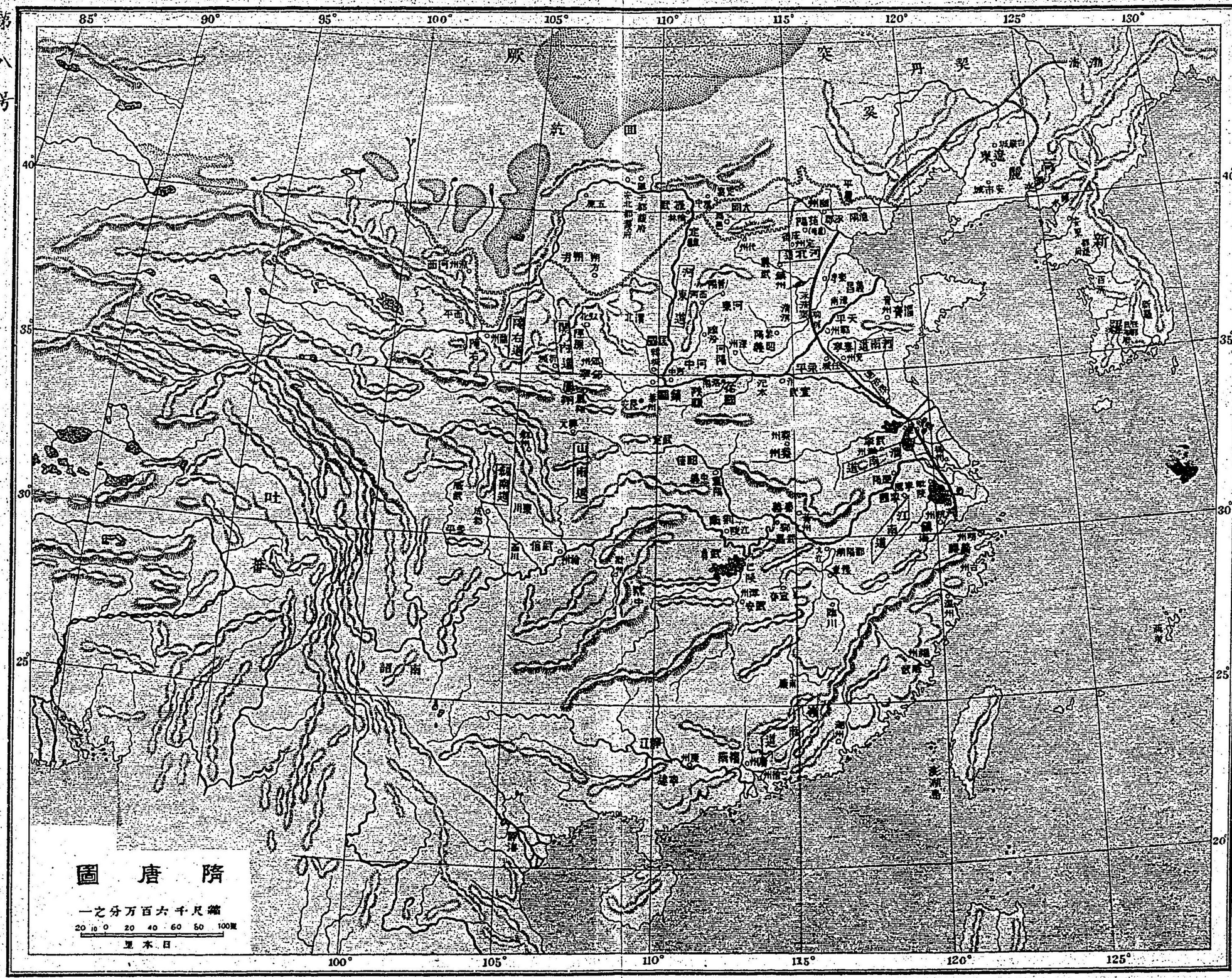

秦漢圖
縮尺千六百万分之一
日本里
代秦
代漢
匈奴
朝鮮
東海
南海
東膠
85°
90°
95°
100°
105°
110°
115°
120°
125°
130°
40
35
30
25
20


六朝圖
縮尺千六百万分之一
20 10 0 20 40 60 80 100哩
里本日
85°
90°
95°
100°
105°
110°
115°
120°
125°
130°
40°
35°
30°
25°
20°
揚子江
黃河
海

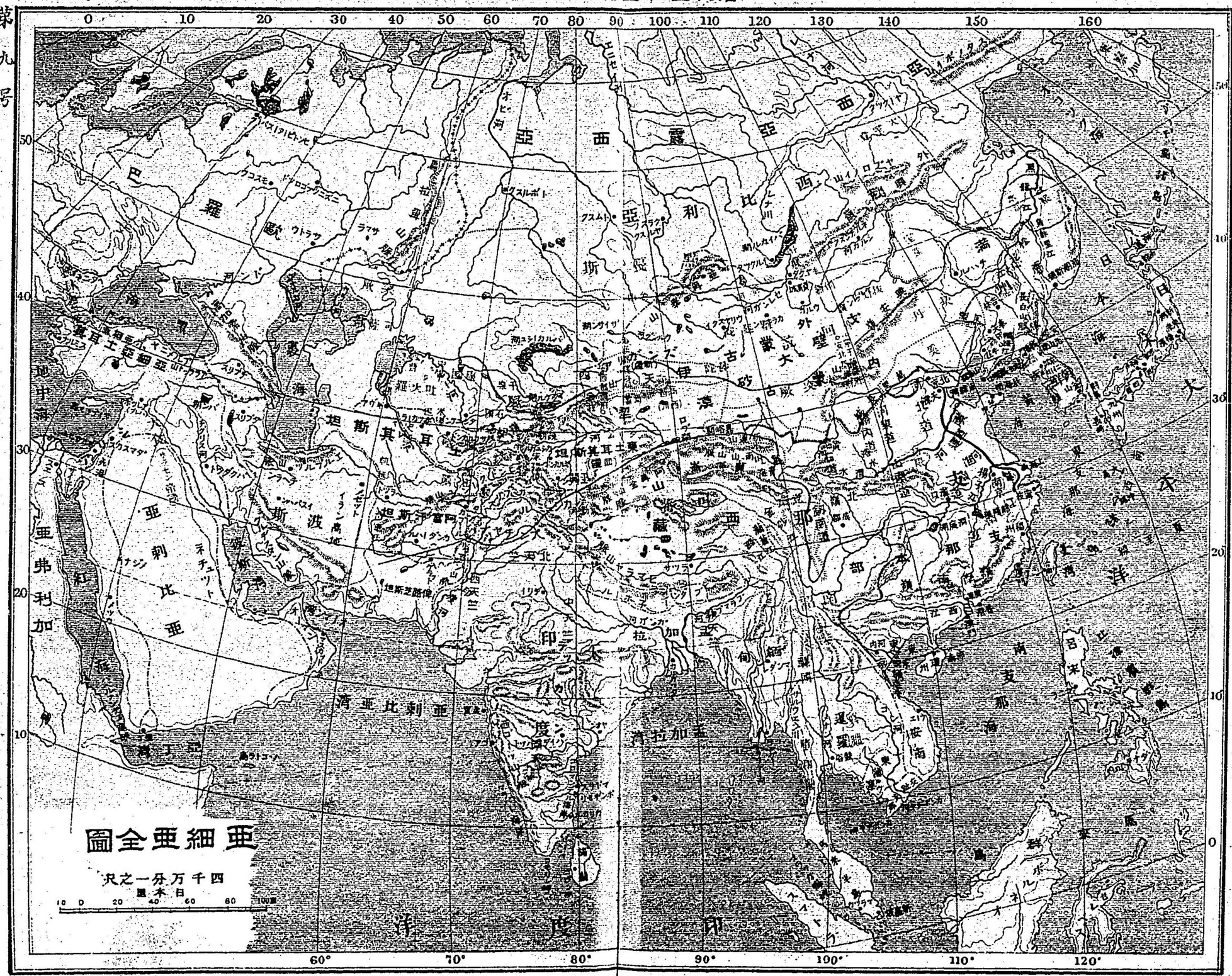
第七號

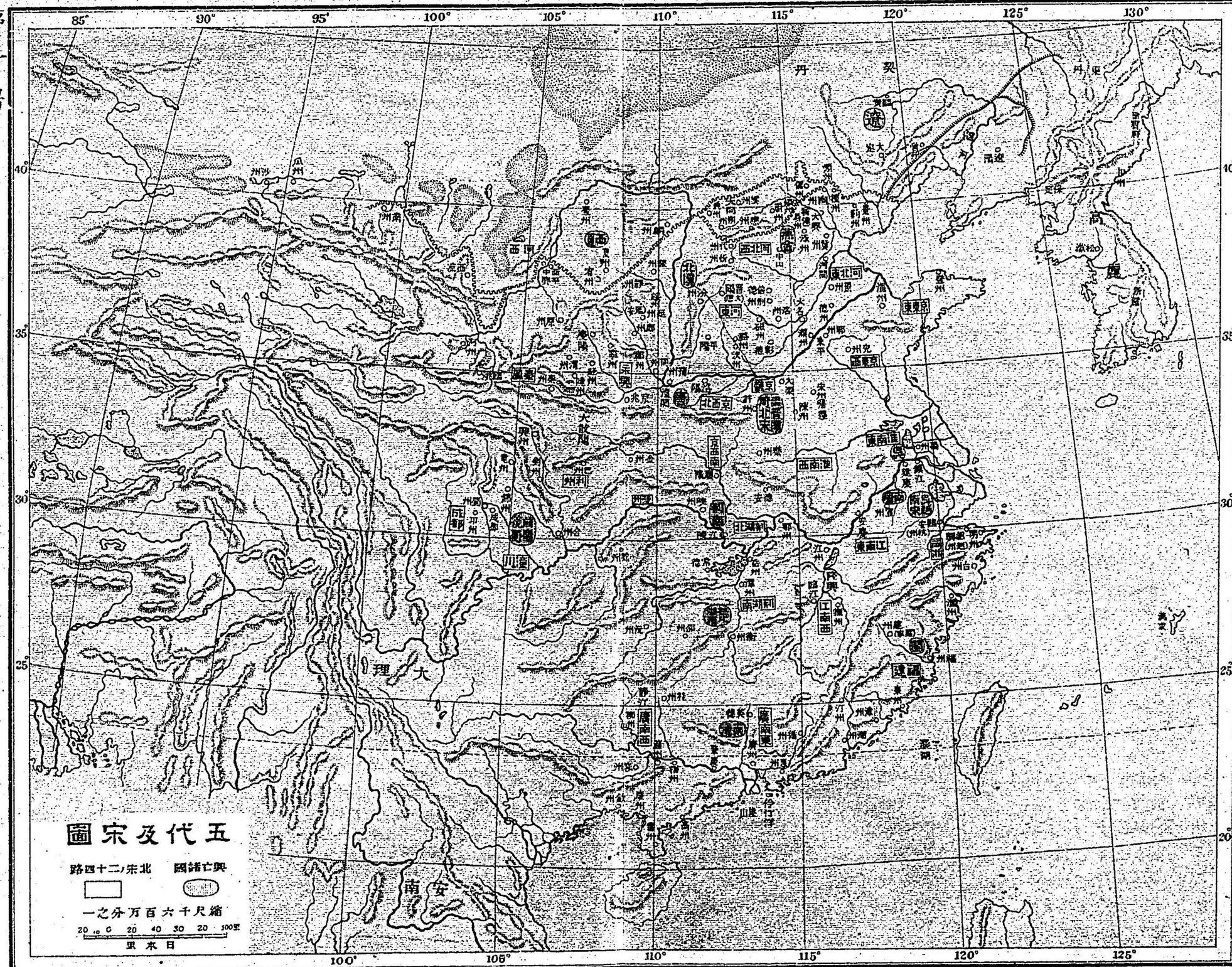
漢代亞細亞諸國民圖


亞細亞全圖
尺之一分万千四
日本國
亞細亞
印度洋
印度
波斯
羅馬
日本海
大月氏
烏孫
烏桓
匈奴
安南
呂宋
紅海
亞剌比亞
亞剌比亞灣
孟加拉灣
孟加拉
印度半島
那部
支那海
支那
黃河
揚子江
蒙古
內蒙古
外蒙古
大壁
伊吾
敦煌
高麗
朝鮮
日本海
黑海
裏海
地中海
亞利加
亞利加灣
亞剌比亞
亞西利亞
亞西亞
亞西亞
亞西


隋唐圖
縮尺千六百万分之一
20 10 0 20 40 60 80 100哩
日本里
85° 90° 95° 100° 105° 110° 115° 120° 125° 130°
40° 35° 30° 25° 20°
厥
突
契
丹
新
羅
渤海
吐
谷
渾
南詔
河北道
河南道
關內道
隴右道
山南道
劍南道
江南道
嶺南道
安南
海南島
臺灣
高麗
百濟
新羅
日本

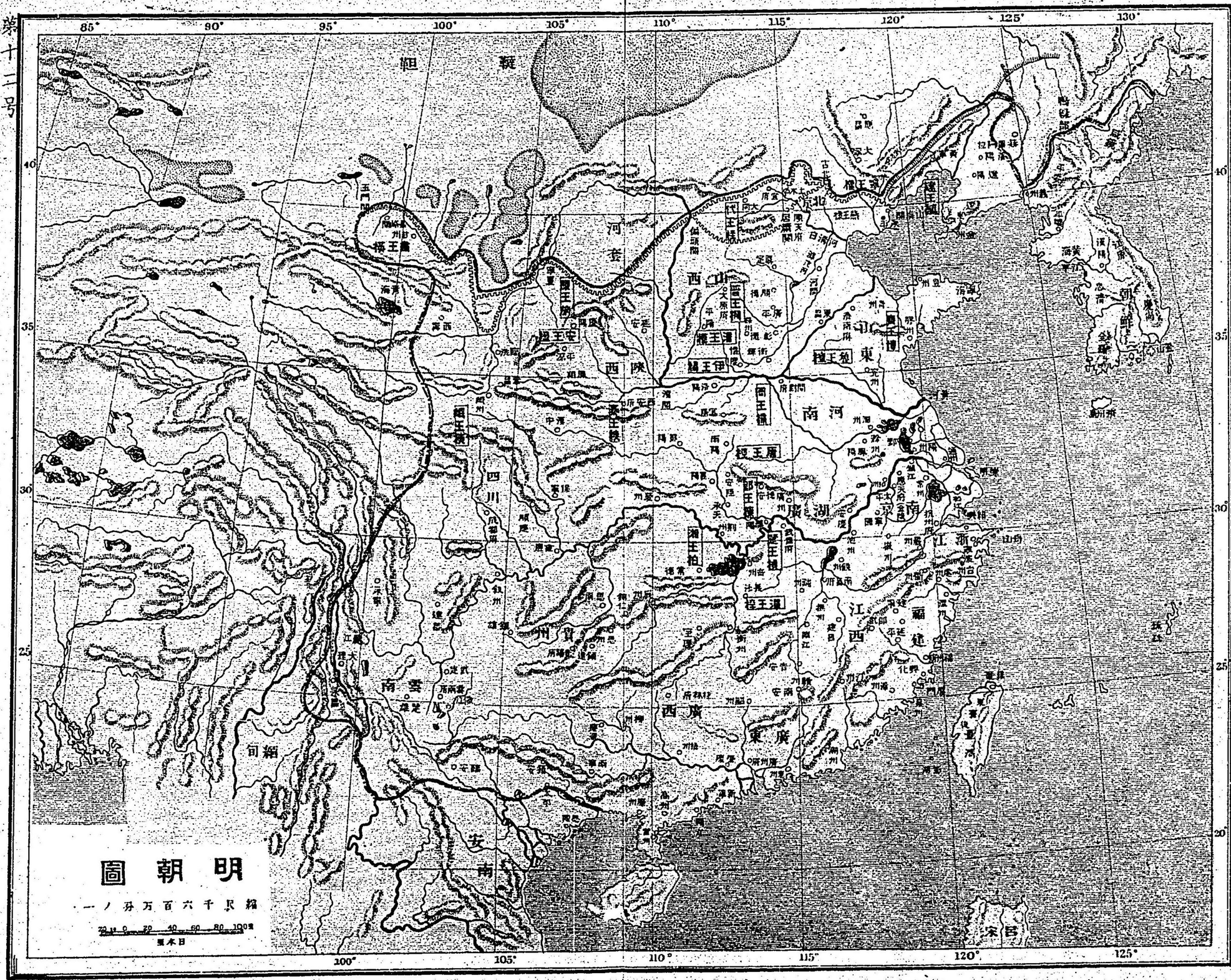
唐代亞細亞諸國民圖

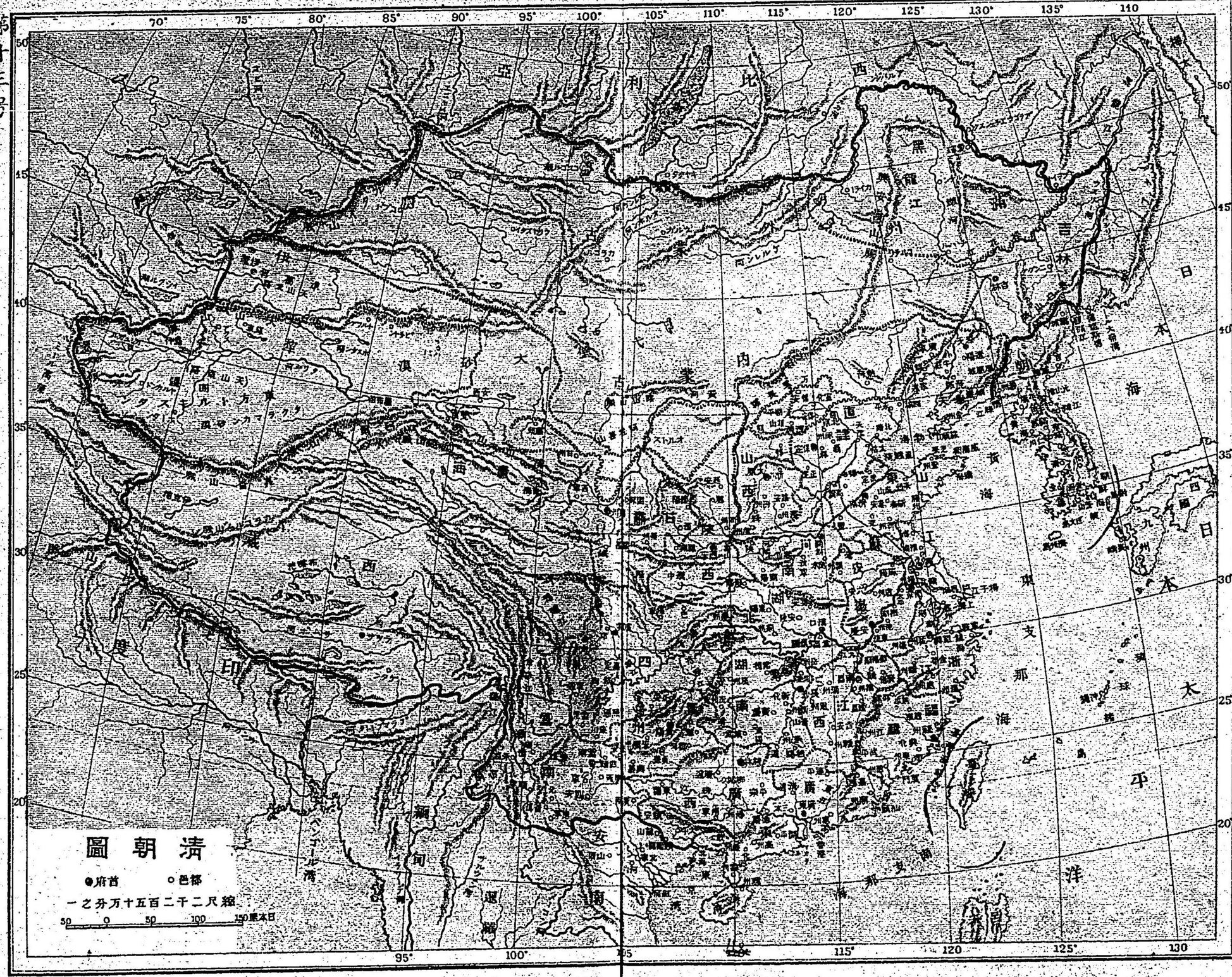

亞細亞全圖
四千万分一之尺
日本里
亞西露
亞西比利
巴羅
地中海
紅海
亞弗利加
亞刺比亞
印度洋
孟加拉湾
大日本海
支那海
南支那海
印度支那
亞細亞山脈
亞刺比亞沙漠
ペルシヤ湾
ボルネオ
ジャワ
ルソン
ウラジオストク
ハバロフスク
ペトログラード
モスクワ
ウラル
ヴォルガ
カスピ海
アラル海
バイカル湖
ヒマラヤ
ガンジス河
インダス河
ペルシヤ
アフガニスタン
ボンベイ
カルカッタ
ラングーン
バンコック
サイゴン
ハノイ
ペキン
上海
漢口
重慶
成都
昆明
ハルビン
ウルムチ
カシガル
タシケント
サマルカンド
ブハラ
テヘラン
バグダッド
カイロ
ナイル河
ニジェル河
ヴォルガ河
ドニエプル河
ドン河
ヴィスワ河
ライン河
ドナウ河
ヒンドスタン
デカン
ビルマ
シャム
ハノイ
ペキン
上海
漢口
重慶
成都
昆明
ハルビン
ウルムチ
カシガル
タシケント
サマルカンド
ブハラ
テヘラン
バグダッド
カイロ
ナイル河
ニジェル河
ヴォルガ河
ドニエプル河
ドン河
ヴィスワ河
ライン河
ドナウ河
ヒンドスタン
デカン
ビルマ
シャム
ルソン
ボルネオ
ジャワ
ペルシヤ湾
ペルシヤ
アフガニスタン
ボンベイ
カルカッタ
ラングーン
バンコック
サイゴン


五代及宋圖
北宋ノ二十四路
興亡諸國
一之分万百六千尺縮
日本里
85°
90°
95°
100°
105°
110°
115°
120°
125°
130°
40°
35°
30°
25°
20°
丹
契
大
理
安
南
高
麗
東京
東南道
西南道
東南江
南湖利
川蜀
成都
大名
東河
西北河
東北河
北西京
京西南
廣南西
廣南東
福建
兩浙
淮南
江南西
荆湖利
開封
大名

元代圖

亞細亞全圖
尺之一分万千四
里本日
亞刺比亞灣
印度洋
印度
支那海
南支那海
日本海
黑海
地中海
亞弗利加
亞刺比
亞西
西伯利亞
俄羅斯
土耳其斯坦
伊犁
天山
蒙古
大內
支那
西藏
印度
拉加
緬甸
暹羅
安南
呂宋
臺灣
琉球
日本
朝鮮
滿洲
黑龍江
烏拉山
高麗
波斯灣
波斯
阿富汗斯坦
印度河
恒河
湖
海


明朝圖
縮尺一ノ千六百万分ノ一
日本里
韃靼
河套
山西
陝西
河南
山東
四川
湖廣
南京
江西
福建
浙江
雲南
貴州
廣西
廣東
安南
暹羅
琉球
宋呂
85°
90°
95°
100°
105°
110°
115°
120°
125°
130°
40°
35°
30°
25°
20°


清朝圖
●府首 ○邑都
縮尺二千二百五十万分之一
50 0 50 100 150里本日
亞
利
比
西
黑
龍
江
吉
林
日
本
海
內
蒙
古
新
疆
西
藏
四
川
雲
南
貴
州
廣
西
廣
東
湖
南
湖
北
浙
江
安
徽
東
支
那
海
太
平
洋
印
緬
甸
暹
羅
安
南
琉
球
諸
島
九
州
四
國
ベンガル灣
暹羅灣
東京灣
70° 75° 80° 85° 90° 95° 100° 105° 110° 115° 120° 125° 130° 135° 140
50 45 40 35 30 25 20

明治三十年三月十七日印刷
明治三十年三月二十日發行

中學東洋歷史
定價七十錢

東京赤阪區青山南町三丁目五十三番地
編者　松島剛

東京日本橋區通四丁目五番地
發行者　和田篤太郎

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　佐久間衡治

東京日本橋區通四丁目五番地
發行所　春陽堂
（電話本局五十一番）

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
電話本局十九番

○此欄内に松島氏の印を捺印なき○は偽版なり
○偽版は印刷者に於て責任を負ふ

版權所有

松島氏著譯並ニ藏版圖書目錄

ペイン氏原著
●心理全書（合譯）二版　全四冊　九百十六頁　定價金二圓四十錢

スチントン原著
●萬國史要　十二版　全一冊　八百五十八頁　定價金壹圓五十錢

コンペー氏原著
●教育史（合譯）　全二冊　九百九十四頁　定價壹圓七十五錢

將軍ハリソン原著
●日清文明論　全一冊　六百頁　實價金五十錢

●臺灣事情（合譯）　全一冊　定價六十錢

文部省檢定濟
●近世地理學　五版　日本之部一冊　四百二十頁　實價金九十八錢

文部省檢定濟
●近世中地理學　八版　日本之部一冊　二百六十五頁　地圖一冊附屬　實價金九十八錢

文部省檢定濟
●近世中地理學　八版　外國之部　三百二十頁　地圖一冊附屬　實價金九十八錢

文部省檢定濟
●新地理學　四版　日本之部　百八十頁　地圖十九枚附屬　實價金八十錢

文部省檢定濟
●新地理學　四版　外國之部　二百六十頁　地圖十七枚附屬　實價金八十錢

文部省檢定濟
●近世地文學　四版　全一冊　二百三十四頁　實價金六十八錢

●內外地圖集覽　五版　日本之部　地圖十九枚　實價金四十五錢

●內外地圖集覽　五版　外國之部　地圖十七枚　實價金四十五錢

●小學地圖集覽　二版　日本之部　地圖十一枚　實價金二十五錢

●小學地圖集覽　二版　外國之部　地圖七枚　實價金二十五錢

●內外新地圖　日本一冊　外國一冊　各實價金十五錢

●大日本全圖　學校用掛圖　凡六尺四方　掛幅製　金二圓五十錢

●世界全圖　學校用掛圖　東西二軸　實價金三圓五十錢

●日本地文地圖　全一軸　近刻

袖珍
●府縣明細地圖　全一冊　定價金六十錢

中學
●日本歷史　全二冊　三百頁　一冊　定價金四十五錢

中學
●東洋歷史　全一冊

中學
●西洋歷史　全一冊

スチントン原著
●英語新讀本　三冊　卷一　卷二　卷三　註疏附（教科或ハ參考用）　金二十錢　金二十五錢　金三十錢

●英文中外讀本　全一冊　實價金四十五錢

新式
●英文典教科書　全一冊　定價金三十錢

松島氏著譯並ニ藏版圖書目錄

- ペイン氏原著 **心理全書**（譯合二版）　全四冊 九百十六頁　定價金二圓四十錢
- スチントン原著 **萬國史要** 十二版　全一冊 八百五十八頁　定價壹圓五十錢
- コンペー氏原著 **教育史**（譯合）　全二冊 九百九十四頁　定價壹圓七十五錢
- 將軍ハリソン原著 **日清文明論**　全一冊 六百頁　價金五十錢
- 文部省檢定濟 **臺灣事情**（譯合）　全一冊　定價金六十錢
- 文部省檢定濟 **近世地理學** 五版　日本之部一冊 四百二十頁　賣價金九十八錢
- 文部省檢定濟 **近世中地理學** 八版　地圖一冊附屬　日本之部一冊 二百六十五頁　賣價金九十八錢
- 文部省檢定濟 **近世中地理學** 八版　地圖一冊附屬　外國之部 三百二十頁　賣價金九十八錢
- 文部省檢定濟 **新地理學** 四版　地圖十九枚附屬　日本之部 百八十頁　賣價金八十錢
- 文部省檢定濟 **新地理學** 四版　地圖十七枚附屬　外國之部 二百六十頁　賣價金八十錢
- 文部省檢定濟 **近世地文學** 四版　全一冊 二百三十四頁　賣價金六十八錢
- **內外地圖集覽** 五版　日本之部 地圖十九枚　賣價金四十五錢
- **內外地圖集覽** 五版　外國之部 地圖十七枚　賣價金四十五錢
- **小學地圖集覽** 二版　日本之部 地圖十一枚　賣價金二十五錢
- **小學地圖集覽** 二版　外國之部 地圖七枚　賣價金二十五錢
- **內外新地圖**　日本一冊 外國一冊　各賣價金十五錢
- **大日本全圖**　學校用掛圖 凡六尺四方　掛幅製　賣價金二圓五十錢
- **世界全圖**　學校用掛圖 東西二軸　賣價金三圓五十錢
- **日本地文地圖**　全一軸 近刻
- 紳珍 **府縣明細地圖**　全一冊　定價金六十錢
- 中學 **日本歷史**　全二冊 三百頁 一冊　定價金四十五錢
- 中學 **東洋歷史**　全一冊
- 中學 **西洋歷史**　全一冊
- スチントン原著 **英語新讀本** 三冊　卷一 卷二 卷三　註疏附（教科或ハ參考用）　賣價金二十錢 金二十五錢 金三十錢
- **英文中外讀本**　全一冊　賣價金四十五錢
- 新式 **英文典教科書**　全一冊　定價金三十錢

松島

學校用

新式掛幅世界全圖

長五尺 巾四尺

是迄西洋紙印刷金巾表裝

東半球 西半球

壹組一ツ 全二幅 賣價三圓五十錢 運送料金二十錢

一本國ハ小學校、中學校、女學校、師範學校其他中學諸學校ノ地理、歷史ノ教授上ニハ適用スヘシ又家庭教育上ニモ便利ナレハ大家貴族ノ家庭ニハ勿論中等以上ノ社會ニハ欠クヘカラサル教育具ナリ

一本圖ハ最モ大日本全圖（掛幅）ヲ編成シテ大ニ教育上ニ資シタル松島氏ノ新ニ工夫セラレタル掛圖ナレハ教授上極メテ便利ナルハ勿論ナリ其特色ヲ左ニ述ブベシ

先生編

(イ)本圖ハ球形ニ畫キタルヲ以テ地球ノ形狀ヲ敎ヘ、經緯度線ノ關係ヲ說クニ便ナリ

(ロ)土地ノ高低ト山脈ノ走向ハ彩色ヲ以テ三段ニ區別シタレハ一目判然タリ

(ハ)火山脈ハ朱色ノ記號ヲ以テ明瞭シタリ

(ニ)海流ト深海ハ記號ヲ以テ判然ト表ハシ又寒流ト暖流トノ區別ヲモナセリ

(ホ)河流ハ極メテ鮮太ニ畫シタレハ數回ヲ距ツルモ能ク之ヲ見ルベシ

(ヘ)大都會ノ位置ハ大ナル記號ヲ以テ表ハセリ

(ト)本圖ノ四隅ニハ特ニ八個ノ小圖ヲ掲クテ赤道、回歸線、極線、五帶等ノ區別ヲ示スニ便利ナラシメ且ツ北極、南極ノ地形及大陸ノ分布ヲ明ニセリ

(チ)氷山ノ流域ヲ表ハシ、日用緯度ノ經度ヲ掲ケ、又各地ノ時差ヲ示シ島カラレメタリ

(リ)右ノ如クナルヲ以テ稱リ地球ノ教授ニ便利ナルノミナラズ地文ノ教授ニモ適用シテ頗レ便宜ナリ

(ヌ)本圖ハ大日本圖ト同シク紙面ニ光澤ヲ加ヘサルヲ以テ光線反射ノタメ學生ノ視官ヲ害スルノ恐モナク又適宜ニ地名等ヲ記入スルヲ得ベシ

松島剛先生編　最良西洋紙印刷金巾表裝

大日本全圖

長幅六尺五寸　賣捌實價金二圓五十錢　特別割價二圓也

一、本圖ハ小學校、中學校、女學校、師範學校、其他中等諸學校ノ地理、歷史ノ教授上ニ適用スベシ又家庭教育上ニモ便利ナレハ大家貴族ノ家庭ニハ勿論中等以上ノ社會ニハ欠クベカラサル教育具ナリ

二、本圖ハ編者松島氏ガ教育上多年ノ經驗ト豐富ナル工夫カトヲ以テ編成シタルモノニシテ其特色ノ一二ヲ擧クレハ

(イ)日本全國各部ノ比例尺同一ニシテ彼レ是レノ對比上便利ナルコト

(ロ)新領地臺灣島ノ地圖ヲ加ヘタルコト

(ハ)土地ノ高低ハ彩色ヲ以テ四段ニ區別シ一目判然タルコト

(に)山脈ハ大抵農商務省地質局所命ノ名稱ヲ記入シ且ツ其屈絡ノ方向ハ遠方ヨリ見ルモ判然ハタレハ一見日本全國地脈ノ構造ヲ知ラシムルニ足ルコト

(ほ)河流ヲ錯太ニ畫シ大河、長流ハ四五間ヲ距ツルモ判然見ルコトヲ得ルコト

(へ)海岸ノ地線ハ記號ヲ以テ其沙渡タリ鮮岸タルコト一見判明ナルコト

(と)都會ノ人口ハ記號ヲ以テ其多少ヲ區別スル際ニ人口一萬以上ノ都會ハ二三間ヲ距ツルモ區別スルヲ得ベシ

(ち)地名ハ總テ成ルベク細字若クハ數字ヲ以テ註記シ且ツ暗射地圖ノ用ヲ爲ル而シテ教師ハ自由ニ之ヲ觀ルコトヲ得ルヲ以テ教授上ノ便宜大ナルコト

(り)本圖ハ初等教育及中等教育上無用ノ地名ハ之ヲ除キタルノハ地名ノ想定上極メテ容易ナルコト

(ぬ)本圖ハ紙面ニ光澤ヲ加ヘタルヲ以テ光線反射ノ多ク學生ノ疲目ヲ害スルノ恐モナク又遠望地名等ヲ記入スルコトヲ得ルコト

(る)本圖ハ代價ハ製版ノ費用節約ナルニ依ル爲メテ低廉ナルヲ以テ如何ナル學校及家庭ニ於テモ容易ニ備フルヲ得ルコト

松島剛先生著

文部省檢定濟

新地理學

全二冊　壹冊賣價金八十錢宛

日本の部　七百八十頁、密畫六十餘、地圖十九枚挿入

外國の部　三百六十頁、密畫八十餘、地圖十七枚挿入

此書は著者が教授上の實驗上から種々工夫を凝し今回新に發行したる者にして特に大方教育家の注意を煩はさんとする特色の一二を擧ぐれば

(1)少年教授法に基き各地方の部を從來の如く之を分ちて心を發達の順序に從ひ殆めて心を發達の順序に從ひ

(2)日今の中學校、女學校、等の科課程に適合せしめんとして和漢洋の記事を省略し文章を平易にし文字を選擇し且つ大に紙數を減じたり

(3)少年男女の趣味を發揮せしめんがため多數の密畫を挿入し一々地圖の參照を促し、又物と歷史との記事を引用したり

(4)新領地臺灣島の記事及地圖は勿論遼東半島の地圖をも挿入したり

(5)朝鮮、支那、安南、暹羅、緬甸、印度、東印度諸島、濠洲、其他南洋諸島の記事は務めて詳細に亦暹羅及北等近隣諸邦の特別地圖を挿入したり此れ他書に未だ其類を見ざる所なり

（以上の外詳細は本書の序言に譲る）

松島剛著　石版彩色刷美本

内外新地圖

（日本之部　賣價二冊十五錢
（外國之部　郵稅各四錢

本圖の要點は左の如し

（一）同種の地圖は同一の比例尺を用ひ甲乙各地の大小を比較するに便せり
（二）地圖の高低は彩色の濃淡にて一目瞭然せり
（三）著名なる山岳の高さは一々數字を記入せり
（四）大なる川流は一目して其脈系を見るを得べし
（五）市町の人口は數種の記號を設けたり特に一万以上の市町は一目瞭を指すが如し
（六）別に山脈圖火山脈圖を設け又海深をも表はし以て地殼の成生を明にしたり
（七）初等生徒に無用の地名は皆之を省き且つ地名は成るべく字畫の大なるものを用ひ以て生徒の視力を害さざる様注意したり

六

松島剛著　文部省檢定濟

第四編

近世地文學

本書は印刷鮮明圖畫精美記事の繁簡宜しきに適ひ地文教科程中最も適合するを以て各府縣採用の榮を享かゝ

全一冊　紙數二百三十頁　賣價金六十八錢

萬國史綱

本書は歐文の譯筆平易なるは勿論原本を讀む人の參考として最も便益なる事は大方諸君子の春知する處なり殊に洋學者處方の重寶といふべし今や版を重ねること十三回以て其好評を知るべし

松島剛譯　賣價金一圓四十錢　送料四錢

七

松島剛著（文部省檢定濟）

近世地理學

第七版

全二冊　一冊定價九十八錢

日本の部（附索引入地圖一冊附）

外國の部（附索引入地圖一冊附）

本書は現今最も完備の教科書として既に十數府縣の採用を蒙り殆んど新版地台を悉くの記事及地圖を新刻し併せて人口、産物、交通の統計を最新の報告に拠て改正を加へ且つ已に文部省の檢定を經たり

第五版

松島剛著

近世地理學

一本書は文部省檢定濟の良書也

一本書は全一冊日本の部出版濟也

一本書の價格は金九十八錢也

一本書の紙數は四百三十頁也

本書は著者多年間の刻苦に拠て成り加ふるに專門の博士學士等數十人の賛助を受けたるものにして發兌以來非常に大方の愛顧を蒙り今や第五版發兌の榮に達せり

第五版

松島剛著

内外地圖集覽

全二冊

價四十五錢

最も遠東宇島を境域とし其他の統計を改正したり其間明精細なる外國のごときは甚しきなり

日本の部地圖十九枚

外國の部地圖十七枚

小學地圖集覽

●松島剛著●色刷細地圖●

（日本之部　地圖十一枚）

地圖は小學見童の爲に出版したものにして勉めて見童の視力を害せざる様にし且つ地圖は必須なる條件は大抵具備せり徒らに無用の山川地名を排列するものとは自ら其趣を異にせり

（外國之部　地圖七枚）

●全二冊●實價二圓廿五錢●

理學士三輪桓一郎著　クロース製美本

新編代數學

上下二冊

●定價一冊　金八十錢●

本書は著者多年間諸學校教授の實驗に徴し中等教育教科用として編纂したるものなり其順序説明の方法等は專ら著者の新案によれり發兌以來日尚浅しといへども已に各府縣十數校の採用を辱うす今や更に增補訂正を加へ卷末に和英對譯を付したり

理學士宮本久太郎著　第三版

近世物理學

上下二冊

●定價一冊金八十五錢●

現今世に行はるゝ物理學の書其數少なからずと雖も其中を得たるは甚し稀なり本書の著者は主として此等の欠點をさけ專ら我國中等教育の程度に適用せしめんが爲更に一機軸を出せり

實學館編　松島剛閲

中學日本歷史

上下全二冊
實價四十五錢
紙數一冊百七十頁

檢定願中

本書編纂の方法左の如し

第一　此の書は、尋常中學校、其他是れと同程度なる諸學校の教科用に供する目的を以て編纂せり。されば材料の選擇、文章の難易、記事の多少は、總べて生徒の思想、發達の理法に照らして、中學の學課、程度に適せんことを旨とせり。

第二　從來の歷史は、專に治亂、盛衰に關係せる偉人、豪傑のみを擧ぐる外に、學問、宗教、技術、實業、等に關して勳功あり、模範となるべき人物をも擧げんことを務めたり。

第三　生徒をして、過多の事實を記憶せしむるときは、徒らに其の腦髓を害するのみならず、却て遺忘し易からしむる患あり。されば、此書に於ては、毎章其の事實の數子を揭げたり、故に教師は、其の事實を敷衍し、生徒をして之を揭げたる事の全局を知らしめんことを要す。

第四　亦稍や進み居る故に、事柄を記憶せしむるときは、年齡も稍や長じ、腦力の發達も中學校の生徒に比するときは、之を小學校の生徒に比するときは、年齡も稍や長じ、腦力の發達も亦稍や進み居る故に、事柄を記憶せしむると共に大略の年紀も記憶せしめざるべからず。

第五　此の書は、歷史の骨編年の骨藏と記事の骨藏とを混用したるは、之が爲めなり。歷史と地理とは、相待ちて離るべからざるものなり。されば、地理を知るにあらざれば、歷史の觀念精確なること能はず。故に本書には精密の地圖を挿入せり。

第六　歷史の中に誤き趣意の轉換する毎に、之を分ちて別項とせり。是れ趣意の混亂を避けて、一節の撰に供せんが爲めなり。

第七　編者は、教授の中に歷史の考證となるべきものゝみを擇みて之を揭げ、苟も想像に渉りて、一切之を取らず。精確を欠くの嫌あるものは、

理學士　宮本久太郎著

新編　理化示教

金文字入　印刷鮮明
クロース製　紙質佳良　實價廿五錢

本書は理學士宮本久太郎氏が新の經營になりたるものなり、從來世に流布する處の冊子は、大概理學化學を箇々に記述し或は之を折衷すと雖も、時に殆んど相互の因緣を隔絶したる者なきにあらず、されば學に入る事日尚淺きの少年に於ては兩學を通じて比照難ある事論を待たず、蓋し理化示教なる科目は學近の智識を授くるは學生をして習學の興味を得さしめ以て其門に入るを易からしむるにあり、故に理化學上箇々の事實を列記するのみにては記憶力を疲しめ反つて斯學を厭ふの念を起さしむ、本書は編纂の要は、全く二者を混記し且章を分つと雖、聯環せる方法なり、左れば教授時間の都合を計つて可成簡易の解釋を舉げ、且毎章の末に其要點を摘記し學生の記憶を容易に要領を得せしめ、本書掲ぐる處の實驗は、如何に理化學器械に乏しき處なりと雖も容易に施行せらるべし乞ふ

松島剛　佐藤宏共編

臺灣事情

實價六十錢

從來臺灣地誌の發行せられたるもの少なからず然れども其の多くは一片の小冊子にして想像臆說を以て滿たされたるが如し本書は二十餘年間臺灣の傳道に從事し其社會百般の事情に通曉せるマックケー氏の著書により傍ら諸書を參考して編纂したるものにして實業家海陸軍人其他紳士淑女の好參考書なるのみならず地理學上尤も確實なる材料たり而して其實歷談の如きは興味深く宗教家の傳道上大いに資する所あるべし

松島剛編　木崎盛政製圖

府縣明細地圖

彩色上等　西洋紙摺　地圖五十三枚

- 地理教科參考用兼旅行携帶用
- 面積、人口、產物、農工商業の統計並に汽車汽船發着表、名所古跡、温泉、名物等案內附

本圖は右の如き目的を以て編成し印刷鮮明山野河湖市町村落道路航路等百般の世務に有用なる事項は一度卷を開けば恰も掌を指るが如き感あり

松島剛編輯

中學東洋歷史

（近刊）

密畫挿入、沿革地圖十三枚入
百八十頁、四號活字、菊版

全壹冊

一本史は近來史學家の研究によりて漸く整頓せる新規の材料に據り支那を中心とし、西域、印度、暹羅、安南、朝鮮、等東洋の史流に關係するものは擧けて之を組織し能く其要を得たり

一本書は中學程度に合する樣特に注意を加へて編輯したり、特に文章を平易にし、文字を大にしたれは獨り中學校のみならず高等女學校用にも適當なり

松島剛編輯

中學西洋歷史

（近刊）

密畫挿入、沿革地圖十一枚入
二百頁、四號活字、菊版

全壹冊

一本書は斯新の史眼を以て撰擇せる材料を敎育に適する樣巧に料理し事項の轉換する毎に節を立てたれは敎授上最も便利なると日本歷史及東洋歷史と同樣なり

一此他中學程度に合すると、文章の平易なる事等は大抵東洋歷史と同一なり

松島剛
長谷川哲次 共編

新式英文與敎科書

實價卅錢（郵稅四錢）

本書は特に日本學生の爲めに編輯したるものにして一々文法上の要義を日本學生の了會し易き樣日本語にて丁寧に說明し、各章毎に英文和譯、和文英譯、並に會話の練習を爲さしむる樣編述したれは此書に據りて英文法を敎授すれは文法を知ると共に英文を和譯し、和文を英譯し、又英語會話にも熟達するを得べし、

中島幹事著

中學日本文典

實價六十五錢

本書は中學の程度を主として專ら普通文の上に應用せらるゝを基とせり故に先づ部類分けを正くして說明の便を計り又た新に辭の調子を論し漢文字が普通文に應用せらるゝ丈を窮めたる等古今未發の說を發して一の新文典を著はせるものと謂ふべし從來の文典はその說明の方法こそ異なれ。之れが大要に至つては、いづれも、殆と甲乙なきなり。まかるにこの文典は、從來の動がすべからざる理法に今日に應用せられて千古換はらざる理法をも加へて、一の新面目を開けり。

松島剛編輯

中學東洋歷史

（近刊）

全壹冊

密畫挿入、沿革地圖十三枚入
百八十頁、四號活字、菊版

一本史は近來史學家の研究によりて漸く整頓せる新規の材料に據り支那を中心とし、西域、印度、暹羅、安南、朝鮮、等東洋の史流に關係するものは擧けて之を組織し能く其要を得たり

一本書は中學程度に合する樣特に注意を加へて編輯したり、特に文章を平易にし、文字を大にしたれは獨り中學校のみならず高等女學校用にも適當なり

松島剛編輯

中學西洋歷史

（近刊）

全壹冊

密畫挿入、沿革地圖十一枚入
二百頁、四號活字、菊版

一本書は嶄新の史眼を以て撰擇せる材料を教育に適する樣巧に料理し事項の轉換する毎に節を立てたれは教授上最も便利なると日本歷史及東洋歷史と同樣なり

一此他中學程度に合すると、文章の平易なる事等は天地東洋歷史と同一なり

松島剛
長谷川哲次 共編

新式英文典教科書

クロース製美本
實價卅錢　郵稅四錢

本書は特に日本學生の爲めに編輯したるものにして一々文法上の要義を日本學生の了會し易き樣日本語にて丁寧に說明し、各章每に英文和譯、和文英譯、並に會話の練習を爲さしむる樣編述したれは此書に據りて英文法を敎授すれは文法を知ると共に英文を和譯し、和文を英譯し、又英語會話にも熟達するを得べし、

中島幹事著

中學日本文典

實價六十五錢

本書は中學の程度を主として專ら普通文の上に應用せらるゝを基とせり故に先づ部類分けを正くして說明の便を計り又た新に辭の關子を論し漢文字が普通文に應用せらるゝ丈を窮めたる等古今未發の說を發して一の新文典を著はせるものと謂ふべし從來の文典はその說明の方法こそ異なれ。之れが大要に至つては、いづれも、殆と甲乙なきなり。然るにこの文典は、從來の動かすべからざる理法に今日に應用せられて千古換はらざる理法をも加へて、一の新面目を開けり。

理學士 宮本久太郎著
クローズ製美本
上下 全二冊

新式算術

一冊實價六十錢
（文部省檢定濟）

本書は著者多年間數學教授の實驗に依り極めて斬新の方法を以て編纂したる者也曩に文部省に檢定を出願するや些の指定を受けすべて直に許可せられたり以て其中等教育の課程に適するを證すべし

上卷は整數の組立及び計算、整數の性質、分數小數、循環小數、下卷は復名數、比及び比例、百分算、開方法、級數、求積の諸章を載せたり、

大島孝造 卜部準平合著

數學三千題

全二冊 洋裝上下全二冊 實價一冊四十錢宛

大島孝造著 數學五千題

上中下 全三冊 上卷實價廿五錢 中下各廿三錢

全解式

全一冊 實價廿五錢

文檢 部定 省濟

松島剛編

日本地文地圖

全一軸六尺
四方掛圖中學程度學校用家庭用

近刊

一本圖は主として學校用のため編成したるものなり地文學教授に必要なるは勿論、苟くも日本國の全形を有りの儘に見さんとする場合には最も適當の地圖なり

一山脈はコントル曲線を以て表はし著名の山岳は一々點を以て其位置を示し、火山は別に區別し一見明瞭なり大陸東都の山脈も之を畫けり

一火山脈は千島、富士、霧島三帶を始め彩色を以て其脈絡を表はしたれは大教場に於てもよく之を識別すべし

一海流は記號を以て其方向を示し是れ亦判然たり、海深も一々線を畫して其淺深を表はせり

一同温線、雨量、風向、等は或は別に小圖を描き又は記號を付する等の用意あり

一時差に時計の圖を設け一見判別し易からしめたり

理學士 宮本久太郎著
クロース製美本
上下 全二冊

新式算術

一冊實價六十錢
（文部省檢定濟）

本書は著者多年間數學教授の實驗に依り極めて斬新の方法を以て編纂したる者也曩に文部省に檢定を出願するや些の指定を受けずして直に許可せられたり以て其中等教育の課程に適するを證すべし

上卷は整數の組立及び計算、整數の性質、分數小數、循環小數、下卷は復名數、比及び比例、百分算、開方法、級數、求積の諸章を載せたり、

大島孝造 卜部準平合著

數學三千題 全二冊 洋裝上下 全二冊 實價一冊四十錢宛

大島孝造著 **數學五千題** 上中下 上卷實價廿五錢 全三冊 中下各廿三錢

全解式 全一冊 實價廿五錢

文檢 部定 省濟

松島剛編

日本地文地圖

全一軸六尺
四方掛圖中
學程度學校
用家庭用

近刊

一本圖は主として學校用のため編成したるものなり地文學教授に必要なるは勿論、苟くも日本國の全形を有りの儘に見さんとする場合には最も適當の地圖なり

一山脈はコントル曲線を以て表はし著名の山岳は一々點を以て其位置を示し、火山は別に區別し一見明瞭なり大陸東都の山脈も之を畫けり

一火山脈は千島、富士、霧島三帶を始め彩色を以て其脈絡を表はしたれは大教場に於てもよく之を識別すべし

一海流は記號を以て其方向を示し是れ亦判然たり、海深も一々線を畫して其淺深を表はせり

一同温線、雨量、風向、等は或は別に小圖を描き又は記號を付する等の用意あり

一時差に時計の圖を設け一見判別し易からしめたり

National Reader

ナシヨナル英文讀本

松島剛閲　富岡徹先生補修註疏

全三冊卷一實價廿錢

今日我國ニ最モ廣ク行ハル、英語讀本ハ實ニナシヨナル讀本ニアラズヤ、然レ𪜈此書タル舶載ニ係ルヲ以テ未タ日本學生ノ教科用書ニ適當セサルノ憾ナシトセス故ニ今富岡先生之ニ加フルニ補修、註疏ヲ以テシ大ニ學生ノタメニ語學ノ捷徑ヲ開キ併セテ語學教授法ノ改良ヲ計ラレントスルノ美舉アリ弊店先生ニ請フテ之ヲ發行スルノ榮ヲ被リ加フルニ松島剛先生ノ批閲ヲ仰クヲ得タリ、四方ノ高等小學校、尋常中學校、高等女學校、等ノ教科用書ニ御採用アランヿヲ請フ若シソレ編輯ノ主旨躰裁ノ如キハ本書ノ例言ニ就キ其詳細ヲ知リ玉ヘ

松島剛編輯

英文青山叢書

一卷凡百五十頁
各卷肖像圖畫入

本書ハ中等諸學校ノ教科用書トシテ編纂セラレタルモノニシテ特ニ日本學生ノ讀ンデ尤モ稗益アリ且ツ趣味アルモノヲ撰擇セリ特ニ挿ムニ東洋諸邦ノ記事ヲ以テス、一卷ハ既ニ活印ニ附セリ

第一卷中ニハラスキン、ヲレンジ、ウイリヤム、スタンレー、マルコポル、太閤秀吉、羅馬建築圖、クライブ、等ノ肖像及和蘭陀市ノノアートタイプ精彫畫圖ヲ挿入セリ

海戰畫話

石版彩色入
近刊

海軍大尉若林欽君書及說明

國民一般ニ海事思想ニ乏ク海軍事理ヲ解セザル如キ傾向アルハ予輩ノ常ニ遺憾トスル所ナリ今ヤ文運日進ノ時ニ際シ有識ノ士ハ海軍力ノ重大ナル國防上片時モ忽ニスヘカラサルヲ知ルト同時ニ帝國軍艦ノ猶少數ニシテ邊海ノ防備未タ完成セサルヲ嘆セスンハアラス然リト雖ヒ事ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニ非ラズ必ス由テ來ル所アリ大河ノ汪洋ハ源泉ノ滾々ニ起ル帝國海軍ノ澎脹擴張ヲ望マンニハ表面的當局者ノ畫策企計ニ由ルト雖ヒ又自ラ國民ノ腦裏ニ海事教育ヲ注射セシムルノ必用アリ。著者ノ本書ヲ編スル實ニ此目的ニ出デタレバ軍艦兵器ハ勿論水兵日常ノ勤務動作艦内操練ノ一斑操砲水雷等一々描寫兒童ト雖ヒ一目瞭然直ニ海軍ノ事理ニ通セシメ他日ノ海國民ノ原素タラシメン事ヲ期ス

冷血翁著

近世偉人談

雲暗澹として風怒號し
雨霧陰々滂沱忽ち偉人
あり破邪の劍を提げて手
に妖雲を排し揮つて天日
を回らさんとす其偉人の傳
十數氏曰く女郎花曰く關
東布衣曰く女將軍海援隊梅
の薫試に卷を開いて一
讀すれば忽ち眉昂り氣
振ふ

實價十八錢

郵稅四錢

The sun has gone
The moon has rise
and the bats fly
But is dark the sky.

go! go! you.
He is waiting you here.
中學一年 [illegible]

74
101

Chugaku Tōyōrekishi
Zenkwan

The Sun has Gone
And the Moon has rise.
But the bat is fly.
is dark the sky.

中學東洋史
全

The truthful Boy
and The honest Boy

My father was a truthful man indeed!
But he is not alive now.
I am sad.

003307−000−4

74−101

中学東洋歴史

松島　剛／著

M30

ACC−1730